

平成20年度

第12回 視聴覚教育総合全国大会  
第59回 放送教育研究会全国大会  
合同大会（東京大会）

<大会テーマ>

「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」

主 催 全国放送教育研究会連盟、**NHK**  
視聴覚教育総合全国大会連絡協議会  
日本学校視聴覚教育連盟、全国視聴覚教育連盟、全国高等学校メディア教育研究協議会  
(財)日本視聴覚教育協会、(財)パナソニック教育財団

共 催 東京都放送教育研究協議会、(財)日本放送教育協会  
後 援 文部科学省、総務省、厚生労働省、東京都教育委員会  
日本教育メディア学会、日本教育工学会、日本教育工学協会  
日本視聴覚教具連合会、(社)映像文化製作者連盟

日 程 平成20年10月24日(金)・25日(土)

主会場 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）  
(千代田区立九段小学校、江戸川区立清新第一小学校、(株)内田洋行新川オフィス)

# 目次

## CONTENTS

### ■ ご挨拶

視聴覚教育総合全国大会連絡協議会  
全国放送教育研究会連盟

会 長 井上 孝美 ..... 4  
理事長 三角 哲生 ..... 5

### ■ 大会日程

..... 6

### ■ 会場案内

..... 7・8

## <1日目>

### ■ 放送教育 授業公開

..... 11

- |    |                                 |           |
|----|---------------------------------|-----------|
| 1年 | 国語『お話を楽しく伝える名人になろう』活用番組 おはなしのくに | 授業者 竹下 佳余 |
| 3年 | 道徳『生き物のいのち』活用番組 みんな生きている        | 授業者 川島 文典 |
| 4年 | 理科『季節と生き物』活用番組 理科4年 ふしぎ大調査      | 授業者 福田 章人 |
| 5年 | 総合『環境問題ってなんだろう』活用番組 ど～する？地球のあした | 授業者 小田 正弥 |
| 6年 | 社会『新しい日本の国づくりを見つめよう』活用番組 見える歴史  | 授業者 小松田 良 |

### ■ 放送教育 校種別研究交流会

..... 12

- |                                  |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ①遊びを通した“創り出す”力の育成                | コーディネータ：堀田 博史（園田学園女子大学）           |
|                                  | 発表者：越前屋彰子（北海道函館市立はこだて幼稚園）         |
|                                  | 発表者：佐々木 操（秋田県学校法人海山学園追分幼稚園）       |
| ②人間力の育成                          | コーディネータ：亀井美穂子（椋山女学園大学）            |
|                                  | 発表者：山本 英史（熊本市立泉ヶ丘小学校）             |
|                                  | 発表者：竹下 佳余（全放連人間力育成プロジェクト）         |
| ③思考力と表現力の育成—地上デジタル放送やデジタル教材を用いて— | コーディネータ：中川 一史（独立行政法人メディア教育開発センター） |
|                                  | 発表者：浅香 一世（大阪府高槻市立阿武山小学校）          |
|                                  | 発表者：梅津 靖子（東京都東三鷹学園三鷹市立第一小学校）      |
| ④放送利用による言語活動の展開                  | コーディネータ：稲垣 忠（東北学院大学）              |
|                                  | 発表者：西尾 晃明（東京都東三鷹学園三鷹市立第六中学校）      |
|                                  | 発表者：蠣F 裕子（東京都台東区立浅草中学校）           |
| ⑤キャリア教育・情報教育の新展開                 | コーディネータ：中橋 雄（武蔵大学）                |
|                                  | 発表者：池田 明（大阪市立扇町総合高等学校）            |
| ⑥特別支援教育における放送番組とインターネットの活用に向けて   | コーディネータ：坂田 紀行（前全放連副理事長）           |
|                                  | 発表者：天野ちさと（大阪教育大学附属特別支援学校）         |

### ■ 視聴覚教育 学視連・全高メディア協一分科会

..... 16

#### ◇学視連 授業公開（江戸川区立清新第一小学校）

- |    |                                                    |
|----|----------------------------------------------------|
| 1年 | 算数 島守 絵梨「かたち遊び」紙に写しとった箱のかたちを全体に投影する。               |
| 2年 | 生活 神宮 容子「地下でつはくぶつかんに行こう」デジタルカメラの映像を用いてまとめる。        |
| 3年 | 国語 原 弘義「スナップスナップ～わたしの宝もの」思いが伝わるように考えながら宝ものの紹介文を書く。 |
| 4年 | 総合 那須健太郎「情報モラル」身近な著作物を題材に著作権の基礎を学ぶ。                |
| 5年 | 総合 清水 正幸「英語に親しもう」CDや絵を使って、コミュニケーション活動を行う。          |
| 6年 | 総合 佐藤 康隆「情報モラル」日々変化する携帯電話の安全な利用について学ぶ。             |

#### ◇読み聞かせデモストレーション

#### ◇研究全体会

実践事例 東京都小学校視聴覚教育研究会研究推進委員会

「意欲を高め、確かな学力を育成する視聴覚教育の創造」

#### ◇講演『新学習指導要領と教育の情報化』

講師 堀田 龍也（独立行政法人メディア教育開発センター准教授）

|                                        |                                |
|----------------------------------------|--------------------------------|
| ■ 視聴覚教育 全視連—シンポジウム、施設見学、理事会            | 17                             |
| ◇ネットワークシンポジウム                          |                                |
| ネットワークを活用したメディアサービスの現状と可能性             |                                |
| 「IT社会における視聴覚メディアサービスを考える」              |                                |
| 助言者                                    | 松田 實（全国視聴覚教育連盟専門委員長）           |
| 司会進行                                   | 中台 正弘（埼玉県春日部市視聴覚センター主査・指導主事）   |
| コメンテーター                                | 田中 耕治（青森県総合社会教育センター学習情報課指導主事）  |
|                                        | 丸山 裕輔（新潟県立生涯学習推進センター社会教育主事）    |
| ネットワーク参加                               | 福井市映像文化センター                    |
| (株)内田洋行 新川オフィス（ユビキタス協創広場 CANVAS（カンバス）） |                                |
| < 2 日目 >                               |                                |
| ■ 放送教育                                 | 23                             |
| ◇開会行事                                  |                                |
| ◇ポスターセッション                             |                                |
| ◇全体会                                   |                                |
| ◇研究交流会（一般部会 [OB]）                      |                                |
| ■ 視聴覚教育 学視連—分科会                        | 25                             |
| ①先導的教育情報化推進プログラム状況報告                   | 講師 井口 磯夫（十文字学園女子大学教授）          |
| ②先導的教育情報化推進プログラム授業実践報告                 | 寺島 岳（東京都港区立高輪台小学校）             |
| ③地上デジタルテレビへの移行に伴う整備と活用について             | 文部科学省生涯学習政策局参事官（学習情報政策担当） 椿 泰文 |
| ④ケータイの実態と情報モラル教育                       |                                |
| 1) 調査「ケータイの実態と情報モラル教育」集計結果             | 品川区立芳水小学校 佐藤 康隆                |
|                                        | 新宿区立戸山小学校 三田 暢夫                |
|                                        | 品川区立芳水小学校 佐藤 康隆                |
| 2) 情報モラル教育実践事例報告                       |                                |
| ■ 視聴覚教育 全視連・全高メディア協—分科会                | 27                             |
| 分科会① 「著作権と映像メディアサービス」                  |                                |
| コメンテーター 村上 長彦（東京都足立区青少年センター青少年教育担当係長）  |                                |
| コメンテーター 梶元 達也（岡山県生涯学習センター情報課課長）        |                                |
| 分科会② 「映画活用とその可能性」                      |                                |
| 発表者 酒井 登（東京映像メディア研究会会長）                |                                |
| 発表者 松澤 澄江（横須賀市16ミリ試写室）                 |                                |
| 分科会③ 「特色あるライブラリーづくりの実践に学ぶ」             |                                |
| コメンテーター 原田 成夫（北村山視聴覚教育センター所長補佐）        |                                |
| コメンテーター 丹治 良行（栃木県総合教育センター生涯学習部社会教育主事）  |                                |
| ■ 視聴覚教育 全高メディア協（高校）—分科会                | 32                             |
| 研究発表 1 「テレビCMを賢く読み解く」                  | 黒木 健（秋田県立仁賀保高校教諭）              |
| 研究発表 2 「トリック映像制作を通してメディアを学ぶ授業づくり」      | 田崎 丈晴（東京都立大泉高校教諭）              |
| ■ 合同全体会                                | 40                             |
| 主催者挨拶・来賓祝辞                             |                                |
| 各団体別功労者表彰                              |                                |
| 記念講演……「5分間の勝負」 深町幸男（テレビドラマ演出家・映画監督）    |                                |
| 閉会式                                    |                                |
| ■ 平成20年度 各団体功労者                        | 41                             |
| ■ 視聴覚教材・機材等展示研究会                       |                                |
| 第44回「教育の近代化展」出展協賛社                     | 42                             |
| ■ 協賛広告                                 | 47                             |

# ご挨拶

視聴覚教育総合全国大会連絡協議会

会長 井上 孝美



平成20年度第12回視聴覚教育総合全国大会及び第59回放送教育研究会全国大会の合同大会開催にあたり、主催者としてご挨拶申し上げます。

昨年、視聴覚教育総合全国大会及び放送教育研究会全国大会は、それぞれ今日まで培ってきた伝統と成果を持ち寄って、進化する教育の情報化に対応した新たな教育メディア研究の第1歩を踏み出すことができました。本年は、その研究成果を生かしつつ、変化の激しいこれからの社会を生きる力を育むため、教育基本法の理念を踏まえつつ、今日的視点から視聴覚教育・放送教育のあり方をさらに追及したいものと考えます。ネットワーク社会が大きく進展する中で、教育の情報化のさらなる推進、情報メディアをめぐる影の部分への対応等々、教育メディア関係者が真摯に取り組まなければならない問題が山積しております。

大会主題「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」は、進展する情報化の中で教育が積極的に取り組まなければならない中心的課題であり、各団体それぞれが積み上げてきた実績をさらに深め、積極的な情報と人の交流を通じて、ひとの心を大切にする教育や新たな課題解決に取り組むことができると期待しております。今日、視聴覚メディア、放送メディア利用をめぐる課題は、地上デジタルテレビ放送の教育利用をはじめ、学力とICT活用の問題、情報リテラシーやモラルの育成、教員のICT活用能力の向上、さらには地域における教育力の問題等多岐にわたります。

2日間の日程で、第1日は校種別研究交流会をはじめ公開研究会、シンポジウム、第2日には視聴覚教育の団体別分科会、放送教育のポスターセッション、全体会における記念講演に加えて、視聴覚教材・教具の展示研究会と充実した研究協議が展開されるものと期待しております。

大会の開催にあたり、文部科学省はじめ東京都教育委員会、主催者としてご支援を頂きましたNHK及びご後援を賜りました関係団体・企業等に対して心からの謝意を表します。

終わりに、この視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会の合同開催について、終始熱心に取り組まれた大会実行委員会関係各位に深く御礼申し上げますと共に、本大会が、所期の目的を立派に達成することができますよう祈念いたしましてご挨拶とします。

全国放送教育研究会連盟

理事長 三角 哲生



平成20年度第59回放送教育研究会全国大会ならびに第12回視聴覚教育総合全国大会の開催にあたり、主催者としてご挨拶を申し上げます。

昨年、放送・視聴覚両関係者の並々ならぬ努力により、初の本格的な合同大会を開催することができました。そこでは、「2011年テレビ放送のデジタル化で授業はどう変わるか？」をテーマにしたシンポジウムを全体会で行い、地デジの教育利用の実践を通して、こどもたちの内容理解の深化に繋がる授業創造の可能性が広がりました。こうした成果を経て、今年も共通主題を「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」とし、2011年の地上デジタル放送への完全移行をはじめ急速な進展を遂げる情報化社会の中で、教育におけるICT環境の整備の推進や、それらを授業等に生かしていく指導者としての質の向上、そして、情報化社会のまっただ中に成長していく次代を担う子どもたちに対しての情報モラル教育の必要性など、多様な課題に向かいつつ、放送教育・視聴覚教育それぞれの研究団体が本大会において研究活動を発展させることを目指します。

今大会は、1日目に千代田区立九段小学校と江戸川区立清新第一小学校で授業公開を行い、放送や視聴覚教材を用いた授業の実践により意欲的に学ぶこどもたちの姿もご覧いただきます。また、午後から2日目の午前にかけては、放送・視聴覚のそれぞれが校種や団体ごとに研究交流会やシンポジウムを行い、参会者の皆様とともに研究課題について考えます。そして午後には、深町幸男さんをお迎えして「映像の持つ力」についてご講演をいただいて大会を締めくくります。合同大会の特色を活かし、参会者の皆様には、放送・視聴覚の区別なく自由にご自身の研修にあわせてご参加いただき、課題解決の示唆を得てそれぞれの教育現場で発展させていただくことを期待しております。

今大会の開催にあたり、文部科学省、千代田区教育委員会、江戸川区教育委員会、日本視聴覚教具連合会等、関係機関、団体の皆様のご支援ご協力に感謝し、厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、放送教育研究会全国大会・視聴覚教育総合全国大会の合同開催にあたりご尽力された関係各位にお礼申し上げますとともに、本大会にご参会いただきました皆様が多く成果を達成できますよう祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

# 大会日程

## 10月24日(金)

### 放送教育

|                |          |                                      |                         |
|----------------|----------|--------------------------------------|-------------------------|
| 11:30          | 12:15    | 14:00                                | 17:00 17:15 18:15 18:30 |
| 授業公開           | 昼食<br>移動 | 校種別 研究交流会<br>309、311、401、402、405、513 | 全国<br>事務局長<br>会議        |
| 千代田区立<br>九段小学校 |          | 国立オリンピック記念青少年総合センター                  | 懇親会                     |

### 全視連

|                |                   |                       |                                |
|----------------|-------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 13:00          | 15:00 15:30 15:40 | 16:40                 | 18:30                          |
| シンポジウム         | 施設<br>見学          | 全視連理事会<br>センター連絡協議会総会 | 移動                             |
| (株)内田洋行 新川オフィス |                   |                       | 懇親会<br>国立オリンピック記念<br>青少年総合センター |

### 学視連

|                 |       |                         |
|-----------------|-------|-------------------------|
| 13:30           | 17:00 | 18:30                   |
| 授業公開・講演(シンポジウム) | 移動    | 懇親会                     |
| 江戸川区立清新第一小学校    |       | 国立オリンピック記念<br>青少年総合センター |

### 全高メディア協(高校)

|                     |       |       |
|---------------------|-------|-------|
| 14:00               | 17:00 | 18:30 |
| 校種別研究交流会            |       | 懇親会   |
| 国立オリンピック記念青少年総合センター |       |       |

|                  |       |
|------------------|-------|
| 13:00            | 18:30 |
| 視聴覚教材・教具 展示研究会 I |       |

## 10月25日(土)

## 国立オリンピック記念青少年総合センター

### 放送教育

|             |          |             |       |       |       |
|-------------|----------|-------------|-------|-------|-------|
| 9:00        | 9:30     | 10:00 10:05 | 11:10 | 12:10 | 13:30 |
| 受付          | 開会<br>行事 | ポスターセッション   | 全体会   | 昼食    |       |
| カルチャー棟 小ホール |          |             |       |       |       |

### 視聴覚教育

全視連

学視連

全高メディア協(高校)

|       |                                        |       |       |
|-------|----------------------------------------|-------|-------|
| 9:00  | 9:30                                   | 12:00 | 13:30 |
| 受付    | 団体別分科会                                 | 昼食    |       |
| センター棟 | 全視連→510、511、512<br>学視連→401 全高メディア協→402 |       |       |

### 合同全体会

|             |               |       |       |       |
|-------------|---------------|-------|-------|-------|
| 13:30       | 14:30         | 15:45 | 16:00 | 17:00 |
| 合同行事<br>表彰式 | 記念講演<br>深町幸男氏 | 閉会式   | 抽選会   |       |
| カルチャー棟 小ホール |               |       |       |       |

視聴覚教材・教具 展示研究会 II

### 記念講演

「5分間の勝負」 ..... 14:30~15:45



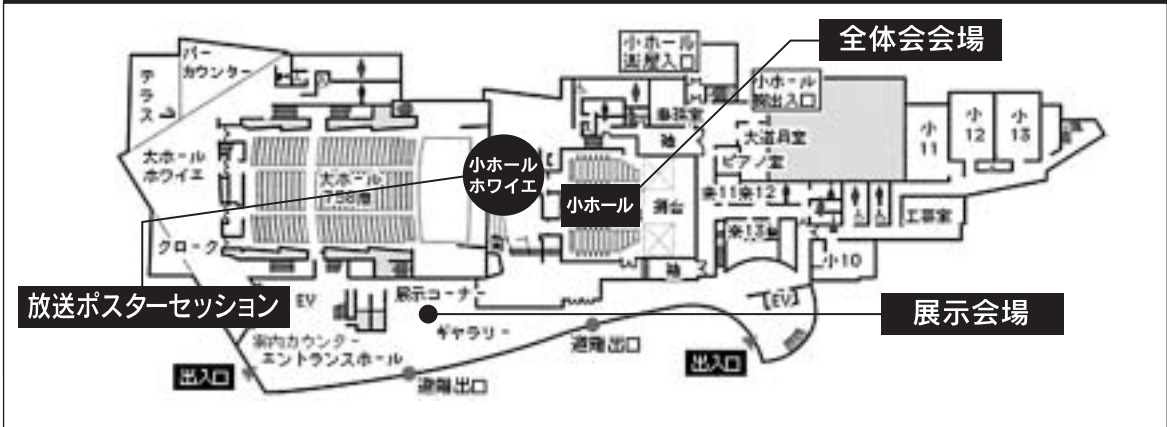
深町 幸男氏 (テレビドラマ演出家・映画監督)

日本を代表するテレビドラマ演出家。1930年生れ。1953年早稲田大学仏文科卒業。新東宝映画入社、その後10年を経て、1963年NHK入局。「夢千代日記」「花 へんろ」「あ・うん」等を演出、NHKを定年退職後NHKエンタープライズ、東北新社等で活躍。最近では映画「長崎ぶらぶら節」を監督した。



## 会場案内

## カルチャー棟—小ホール

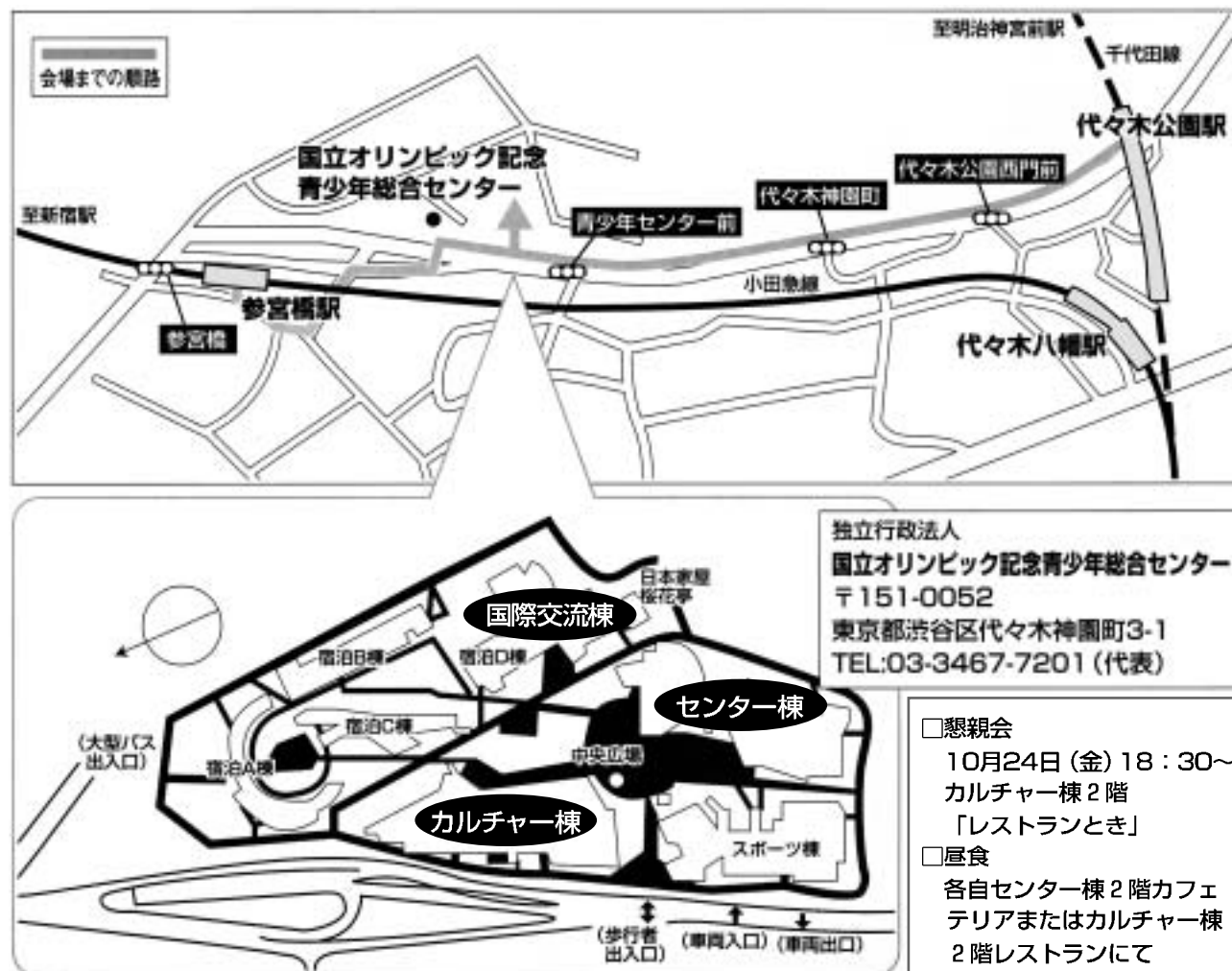


**センター棟—3F・4F・5F**



# 会場案内図

## ◆国立オリンピック記念青少年総合センター 周辺地図



## 会場へのアクセス (交通機関)

最寄り駅

小田急線 参宮橋駅より 徒歩約7分  
東京メトロ千代田線 代々木公園駅より  
(代々木公園方面出口)  
徒歩約10分

東京駅・上野駅・品川駅など山手線各  
駅から山手線または中央線で新宿駅の  
りかえ

小田急線で 新宿駅より2駅目

山手線 原宿駅のりかえ

東京メトロで 明治神宮前駅より1駅目

羽田空港から

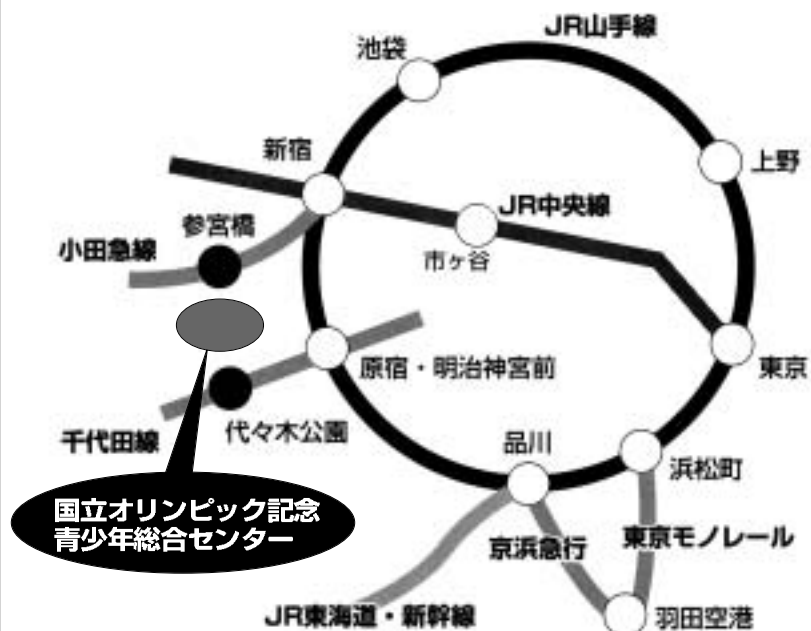
東京モノレールで 浜松町駅のりかえ

JR山手線で新宿または原宿駅へ

京浜急行で 品川駅のりかえ

JR山手線で 新宿または原宿駅へ

## 都内主要駅から (路線図)





**10月24日（金）**

# **大会1日目**

**団体別授業公開  
校種別研究交流会  
シンポジウム**



授業公開.....11:30~12:15

### 千代田区立九段小学校

所在地：〒102-0075 東京都千代田区三番町16  
 電話：03-3263-0564  
 F A X：03-3288-3418  
 校長：木村 昭延  
 学級数：12学級  
<http://www.kudan-e.ed.jp>



NHK学校放送番組・デジタル教材を活用した学習の様子を以下のように公開いたします。放送番組やデジタル教材を通して、意欲的に学ぶ子どもたちの様子をぜひご覧ください。

なお、授業参観後は国立オリンピック記念青少年総合センターへの移動となります。

### 授業公開

1年 国語『お話を楽しく伝える名人になろう』 活用番組 おはなしのくに 授業者/竹下 佳余

「おはなしのくに」『セーターになりたかった毛糸玉』を視聴して、絵本作りに挑戦する。「感想の共有」「ストーリーの再現」「毛糸玉の気持ちへの共感」を通して、物語の展開の面白さや表現することの楽しさに気付く。

3年 道徳『生き物のいのち』 活用番組 みんな生きている 授業者/川島 文典

「みんな生きている」『捨てられる命』を視聴して、捨てられたペット、捨てた飼い主、動物管理センターの方の心情について話し合い、生き物の命を大切にしようとする心情を高める。

4年 理科『季節と生き物』 活用番組 理科4年 ふしぎ大調査 授業者/福田 章人

「理科4年 ふしぎ大調査」を視聴して、秋の動物の活動の様子を考える。冬鳥の飛来について、夏鳥のツバメの活動の様子をもとに類推していく。また、動画クリップを見て、近くに飛来する鳥について知り、観察への意欲をもつ。

5年 総合『環境問題ってなんだろう』 活用番組 ど～する？地球のあした 授業者/小田 正弥

環境問題について調べたことをもとにマインドマップで考えをまとめ、話し合いをもち、マクロな視点として、自分自身が環境問題に対してどのような考えをもつべきか、ミクロな視点としてどのような行動をとるべきかを考えていく。

6年 社会『新しい日本の国づくりを見つめよう』 活用番組 見える歴史 授業者/小松田 良

幕末から明治維新にかけて、どのように新しい時代がつくられていくのかを、西郷隆盛と大久保利通に焦点をあてて学習していく。「見える歴史」を視聴して、二人の思いについて考える。

校種別研究交流会.....14:00～17:00 センター棟3・4・5F

国立オリンピック記念青少年総合センター

### ①幼稚園・保育所.....309号室



#### 遊びを通した“創り出す”力の育成

コーディネータ：堀田 博史（園田学園女子大学）

幼児期の子どもたちは遊びを通して成長していきます。遊びには子どもを育てる要素がいくつもあります。放送教育も同じく子どもたちを育てることができます。放送番組を継続して活用することで、保育者にも子ども達にも遊びを創り出す力が芽生えるのです。その芽生えをどのように育てていけば良いのでしょうか。参加される皆さんと一緒に、2つの園で実践された提案をもとにして、芽生えを育てるポイントを整理していきましょう。多くの先生方の参加をお待ちしています。

#### 活用番組 「しぜんとあそぼ」「つくってあそぼ」

越前屋彰子（北海道 函館市立はこだて幼稚園）

心地よい楽しい視聴経験が繰り返し営まれることにより、子供達は番組に期待したり、自分の思いや課題をもって視聴に取り組むようになる。その思いや課題が達成され、深い感動や満足感を味わうことが出来た時、自分自身で成長を実感できる。友達や教師と感動を共有する経験は、子供の認知や認識を確かなものにしていける。「おもしろそう・やってみたい・調べたい」という感情や意欲をもって、環境とかかわっていく姿を発表します。

佐々木 操（秋田県学校法人海山学園追分幼稚園）

子どもたちは、友達や保育者と一緒にテレビ番組を見て「おもしろい」「ふしぎ」「やってみたい」と、視聴後の感想を素直に表情や行動、ことばで表現しています。心と一緒にからだも動きます。

当日は、当園を取り巻く自然に目を向け小さな発見を大切にしながら、友達と一緒に、実物を見たり、触ったり、時には考えたりして、遊びや活動を進めていく中で、“創り出す”力の育ちを見つめた事例を発表いたします。

### ②小学校.....401号室



#### 人間力の育成

コーディネータ：亀井美穂子（椋山女学園大学）

「人間力」は、例えば、文科省人間力戦略研究会では、「自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義しています。その育成は、道徳番組等の活用による「こころ」の育成のように、番組の活用と様々な形で接点を持つと思われます。本交流会では、人間力の育成に番組をどう活用するか、参加者の方々と多面的に考えます。

#### 活用番組 「道徳ドキュメント」「おはなしのくに」

山本 英史（熊本市立泉ヶ丘小学校）

私たちは一生のうちにたくさんの人と出会い、その人の生き方からたくさんのことを学ぶ。「道徳ドキュメント」から主人公と出会い様々な生き方に触れてほしい。ドキュメンタリー番組を使って授業を行い、「人」がその「時代」に「社会」の中でどのような生き方をしてきたかということを読み取ることは、子どもたちの生活に大きな影響を与えるのではない。教師の思いと制作者の思いが一致したときに番組は大きな成果を発揮すると思う。

竹下 佳余（全放連人間力育成プロジェクト）

論理的思考力・表現力の育成の基盤となる「人間力」とは。子どもの実態と放送番組の特性を踏まえて、「持続力+かかわる力」「共感的理解力」「分析力」「挑戦力」「発想力」（全国放送教育研究会連盟「人間力育成プロジェクト」リーフレット参照）をバランスよく育成することをねらいとした「おはなしのくに」の実践を提案します。継続視聴と視聴後の表現活動の工夫によりねらいがどのように達成されたか、課題は何か。「人間力」の育成に資する放送教育の在り方を考えていきたいです。

### ③小学校.....311号室



#### 思考力と表現力の育成

##### —地上デジタル放送やデジタル教材を用いて—

コーディネータ：中川一史（独立行政法人メディア教育開発センター）

活用型学習が新学習指導要領で重要視される中、地デジやデジタル教材をどのように活用させることがポイントなのか、具体的な事例をもとに、参加者で追究していきたいと思います。

#### 活用番組 「日本とことん見聞録」「えいごであそぼ」

浅香 一世（大阪府高槻市立阿武山小学校）

思考力は、知識を習得し、それを活用していくなかで身につけていくと考えています。番組では、働く人たちの苦労や工夫をインタビューを交えながら教えてくれます。動画クリップでは、わかりにくい言葉を映像事典として教えてくれます。番組や動画クリップで知識の定着を図り、それを思考の手がかりとして、思考力や表現力の向上を目指して実践してきました。番組とクリップ、ICTを連動させながら、思考力・表現力の向上を目指した授業を提案したいと思います。

梅津 靖子（東京都東三鷹学園三鷹市立第一小学校）

地上デジタルテレビ放送を活用した低学年（1年生）の英語活動を、模擬授業を通して紹介します。英語活動では、コミュニケーション力の素地を作ることがねらいです。英語という言葉も日本語と同様に、コミュニケーションの場で使うものであることを実感させていく必要があります。そのために、放送番組を視聴してイメージをもたせます。これは、関心・意欲を高めることにもなります。さらに、自分の思いを伝える、相手の思いを理解するという活動を体験させることによって、表現力・思考力の育成を促進できると考えます。

### ④中学校.....513号室



#### 放送利用による言語活動の展開

コーディネータ：稲垣 忠（東北学院大学）

新学習指導要領において重視されている事項の1つに言語活動の充実があります。言語活動を実施する際、放送番組は説明する素材になったり、表現のモデルを提供したり、交流するきっかけを提供するなど、さまざまな可能性が考えられます。実践報告をもとに言語力を伸ばす放送活用のあり方について、皆さんでいっしょに考えていきましょう。

#### 活用番組 「英語でしゃべらナイト」「ベッキーズスクール」「ことば力アップ」

西尾 晃明（東京都東三鷹学園三鷹市立第六中学校）

今回の私の放送利用による言語活動の展開の授業は、道徳で行いました。授業者からの発信、資料提示に放送番組というメディアにより、生徒の関心を高め、理解を深める手段として利用しました。そして、生徒一人一人の発言や話し合いの結果などについてはその内容を書いたもので掲示し、互いに考えを認め合い深めていくという工夫をしました。

蠣崎 裕子（東京都台東区立浅草中学校）

過去三年間の浅草中学校の取り組み概要は、文部科学省学力拠点校として、アウトプット（知識の活用）は、インプット（知識の定着）を進める。本年度からは、その検証と改善を目的に主に総合学習の場を、その実践として位置づけてきた。活動の根幹を成すものは、知識偏重の教育観の改革を積極的に進めてきたこと。真の学力とは何か？を考え、学びを進めるための科学的なよりどころを、東北大学川島隆太教授に頂き、「自分を正しく表現できる生徒」は学力が高いをテーマに据え、NHK日本語センター、NHKアナウンス室の全面的な協力の下、表現力育成授業を全校一斉に実施。さらに、現在は、『表現力＝コミュニケーション能力育成』を主な柱として、3年間の教育プログラムを完成させるべく、NHKラジオ第2放送『ことば力アップ』などを活用し、総合学習を展開している。



### ⑤高等学校.....402号室



#### キャリア教育・情報教育の新展開

コーディネータ：中橋 雄（武蔵大学）

情報社会を生きるために必要な情報活用能力を身に付ける「情報教育」と生徒の職業観・勤労観を育て主体的に進路を選択できるようにする「キャリア教育」には、接点があります。本交流会では、「10min.ボックス 情報・メディア」を中心に情報教育、キャリア教育の新しい展開、そして、放送番組の活用方法について交流します。

#### 活用番組 「10min.ボックス 情報・メディア」

池田 明（大阪市立扇町総合高等学校）

大阪市立扇町総合高等学校における実践事例でのメディアとネットワーク活用についての研究。一年次必修科目「情報A」と二年次自由選択科目「メディアリテラシー（学校設定科目）」において、「10min.ボックス 情報・メディア」を利用した事例を中心に発表。ワークシートなどを併用して情報教育・メディア教育で、どのような展開でどのような成果を挙げられるか、さらにキャリア教育との関連も考察する。

### ⑥特別支援教育.....405号室



#### 特別支援教育における放送番組とインターネットの活用に向けて

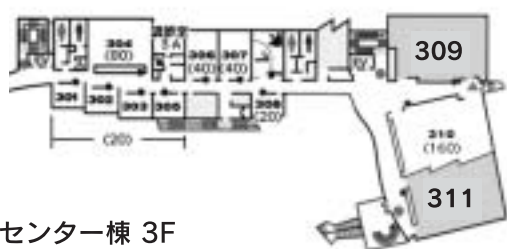
コーディネータ：坂田 紀行（前全放連副理事長）

特別支援学校におけるわかりやすい授業の展開がこどもにとって、将来の社会自立の基礎づくりを確かにすることにつながります。そのために、授業における教材のひとつとして放送番組とインターネットの活用が期待されています。この部会では特別支援学校だけでなく、幼稚園、小・中・高等学校の先生方を交えて放送番組を活用した実践を紹介しながら、考えていきます。

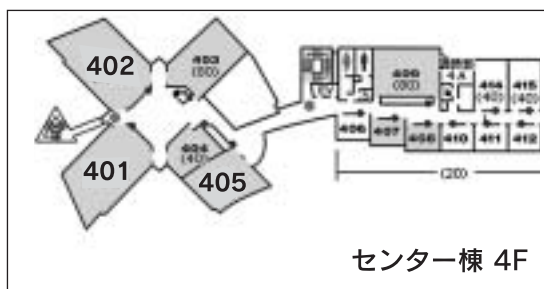
#### 活用番組 「週刊こどもニュース」

天野ちさと（大阪教育大学附属特別支援学校）

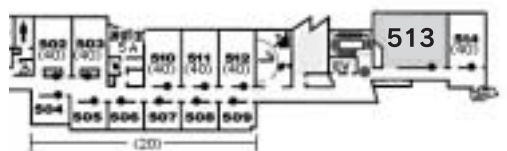
本発表では「週刊こどもニュース」の番組を活用した高等部（知的障害）での実践を報告します。この実践では、世の中の動向に興味や関心をもてるようになること、テレビ等からの情報を活用して自分の生活を豊かにすること等をねらって取り組んでいます。実践をふりかえり、どのような支援や工夫をすれば生徒はより内容を理解できるのかを考えていきたいです。また、情報のバリアフリーの観点からも参加者の皆さんとともに検討していきたいと思っています。



センター棟 3F



センター棟 4F



センター棟 5F

**MEMO**

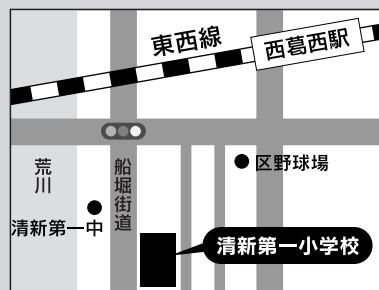
This image shows a blank sheet of white paper with horizontal dashed lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting or typing. There are no margins, text, or other markings on the page.

# 視聴覚教育 学視連・全高メディア協一分科会

学視連—授業公開、講演(シンポジウム).....13:30~16:30

10月24日(金)

江戸川区立清新第一小学校



◆授業公開.....13:30~14:15(於 各教室)

| 学年 | 教科等 | 授業者         | 単元・学習内容等                                     |
|----|-----|-------------|----------------------------------------------|
| 1年 | 算数  | 島守 絵梨(清新一小) | 「かたち遊び」紙に写しとった箱のかたちを全体に投影する。                 |
| 2年 | 生活  | 神宮 容子(清新一小) | 「地下でつはくぶつかんに行こう」デジタルカメラの映像を用いてまとめる。          |
| 3年 | 国語  | 原 弘義(大杉第二小) | 「スナップ・スナップ〜わたしの宝もの」思いが伝わるように考えながら宝ものの紹介文を書く。 |
| 4年 | 総合  | 那須健太郎(清新一小) | 「情報モラル」身近な著作物を題材に著作権の基礎を学ぶ。                  |
| 5年 | 総合  | 清水 正幸(清新一小) | 「英語に親しもう」CDや絵を使って、コミュニケーション活動を行う。            |
| 6年 | 総合  | 佐藤 康隆(芳水小)  | 「情報モラル」日々変化する携帯電話の安全な利用について学ぶ。               |

◆読み聞かせデモンストレーション.....13:30~14:15(於 図書室)

2年 清新一小PTAボランティア 「おおきなきがほしい」「へんしんトンネル」

◆研究全体会.....14:30~15:15(於 体育館)

| 研究発表 | 発表者                   | 研究主題                     |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 実践事例 | 東京都小学校視聴覚教育研究会研究推進委員会 | 意欲を高め、確かな学力を育成する視聴覚教育の創造 |

◆講演.....15:15~16:30(於 体育館)

## 『新学習指導要領と教育の情報化』

講師 堀田龍也氏  
独立行政法人メディア教育開発センター准教授

全高メディア協(高校)—分科会.....14:00~17:00 センター棟 402

10月24日(金)

国立オリンピック記念青少年総合センター

校種別研究交流会・情報教育(放送教育と合同) P.14参照

# 視聴覚教育 全視連—シンポジウム、施設見学、理事会

全視連—シンポジウム、施設見学、理事会.....13:00~16:40

10月24日(金)

(株)内田洋行 新川オフィス(ユビキタス協創広場 CANVAS(カンバス))

## ネットワークを活用したメディアサービスの現状と可能性

### ネットワークシンポジウム

「IT社会における視聴覚メディアサービスを考える」.....13:00~15:00

全国大会全視連部会会場（内田洋行）と福井市映像文化センターをネットワークで結び、情報化社会適応型メディアサービスの今後を考えるシンポジウムを開催する。ネットワーク活用型のメディアサービスを体験しながら、従来型のメディアサービスとネットワーク活用型のメディアサービスを比較検討し、今後のあり方について研究協議を行う。また、企業施設を利用することで、企業の最先端のメディア利用の現状に触れ、視聴覚教育関係者の今後の業務の参考となることをねらいとする。

- ・ 助言者 松田 實（全国視聴覚教育連盟専門委員長）
- ・ 司会進行 中台 正弘（埼玉県春日部市視聴覚センター主査・指導主事）
- ・ コメンテーター 田中 耕治（青森県総合社会教育センター学習情報課指導主事）  
丸山 裕輔（新潟県立生涯学習推進センター社会教育主事）
- ・ ネットワーク参加 福井市映像文化センター

◆(株)内田洋行 新川オフィス(ユビキタス協創広場 CANVAS(カンバス))見学.....15:00~15:30

月のハイビジョン映像（190インチ×2）の視聴、最新のオフィス環境、社史等を最新のデバイスで紹介するプロジェクションテーブル等を見学する。

◆全国視聴覚教育連盟理事会・センター連絡協議会総会.....15:40~16:40



東京都中央区新川2-4-7

東京メトロ 日比谷線「八丁堀駅」下車徒歩4分（A4出口）

東京メトロ 日比谷線・東西線「茅場町駅」下車徒歩5分（1番出口）

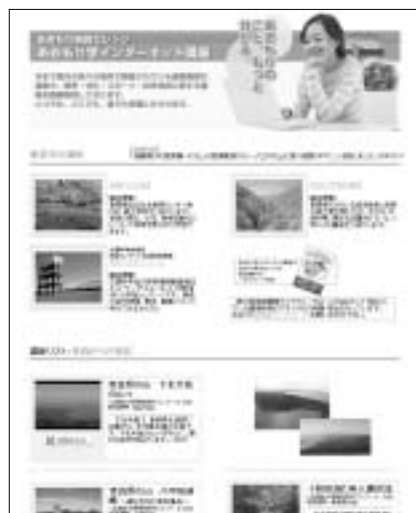
JR京葉線「八丁堀駅」下車徒歩5分（B1出口）

# ネットワークを活用したメディアサービスの現状と可能性 ～青森県総合社会教育センターの事例を中心に～

青森県総合社会教育センター 学習情報課 指導主事  
田中 耕治

青森県総合社会教育センター（以下、センターという）では、「調査・研究と学習事業・教材開発」「職員・指導者研修事業」「学習情報提供・相談事業」「学習機会提供」「施設提供」の各種事業を行なっている。この内、ネットワーク活用に関する私の担当事業は「調査・研究と学習事業・教材開発」のみである。

平成17年、同じく視聴覚教育総合全国大会で「ネットワークの活用と活性化の方向について」と題して発表した時点では、センターでは、ネットワークの活用については、活用すべきとは考えつつも、これといった事業がないのが現状であった。



それからわずか3年。

今や、センターのネットワーク活用サービスは、平成17年度の「すこやか子育てあおもりネット事業」を皮切りに、かなり進展したと言える。現在は、以下のようなサービスを行なっている。

## 1. 家庭教育相談

メールや電話等による家庭教育・子育てに関する相談（「すこやか子育てあおもりネット事業」の一部を継承）。

## 2. 再チャレンジのための学習支援システムの構築事業

メール等による再チャレンジに関する相談。

## 3. あおもり学特別講座

県内著名人の講演をビデオに収録しインターネットで配信（「デジタル教材制作事業」の成果物配信も含む）

## 4. 仕事力アップのためのeラーニング推進事業 若年層への職業学習コンテンツの配信



このうち、視聴覚教材に関する3と4について、アクセス数と旧来からの貸出教材の数を比較してみる。

あおもり学：4, 144

仕事力：4, 531

貸出教材：4, 965（以上平成19年度）

貸出教材は、近年、DVD教材を増やすなどした結果、貸出数がかなり伸びている。それとほぼ同数のアクセスがあおもり学・仕事力のeラーニングコンテンツにあるのは特筆すべきことと思う。それだけ、インターネットでの動画配信・視聴が一般的になってきた証左ではないか。最近では映画等の配信も盛んになりつつある。しかし、市販の教材はライブラリーでは配信できない。

では、どうやってコンテンツを増やすか。

個人的には、教材制作の過程で撮影した映像を、個人のホームページで一部公開している。教育利用に限り、ダウンロードして自由に使えるようにしている。

映像制作をしていて一番困るのは著作権である。今後は、ボランティア等を介しての、自由に利用できる映像アーカイブの収集や、映像制作ボランティアの支援等が必要になってくると思われる。また、センターでは今年度から始めたが、16mmフィルムのボランティアによるデジタル化も重要である。

ライブラリーは、今後、地域の映像アーカイブセンターとしても、重要度を増していくと思われる。



## 地域映像制作・提供の現状と可能性

新潟県立生涯学習推進センター社会教育主事  
丸山 裕輔

### 1. プロフィール

学習情報課の社会教育主事として、教育メディア研修会と映像制作業務を担当している。学校の先生方と共に映像教材を制作したり、公民館等の方々と共に地域映像のデジタル化を推進したりしている。

### 2. 私の主張

#### (1) 視聴覚ライブラリーの教材供給事業について

デジタル技術の進展により、インターネット上には、素材や教材としてのデジタルコンテンツが拡充してきている。そのような現状にあって、パッケージ型の16ミリフィルムやビデオ教材の利用状況も様相を変えてきているが、その特性を生かしていきたい。

たとえば、大自然の壮大さや世界遺産の優美な情景は、大画面で迫力あるビデオ映像を利用する。16ミリの名作映画で、情意に訴え、感動を与える。学習目標や効果を考慮して、アナログやデジタルの映像教材を供給していくことが大切と考える。

#### (2) 地域映像ネット配信について

アナログメディアの制作原理は、デジタル社会にあってこそ、クローズアップされるのではないだろうか。オーダーメイドな映像をネット配信できる現状にあって、学習に活用できる映像素材・教材を提供するためには、映像技法にも留意する必要がある。

視聴覚ライブラリー・センターには、伝統的な視聴覚教育の理論やノウハウがある。ライブラリアンとしての先達といった人脈もあることであろう。人材やその知恵を生かしながら、良質な映像コンテンツを配信していきたい。さらには、全国各地の視聴覚センター・ライブラリーの、それこそネットワークを活用しながら、地域映像そのものを流通させるだけではなく、その制作や配信に関する知識やスキルを交流することも可能であろう。

#### (3) 地域映像の制作収集とアーカイブスについて

視聴覚ライブラリー・センターには、8ミリや16ミリフィルムをはじめ、種々の地域映像がある。貴重な映像を保存するという意味でも、デジタル化を今後推進していくことは一つの使命ともいえる。

また、地域の学校や公民館が、オンリーワンともいえる映像を所有していることがある。当センターでも、県内の市町村教育委員会が保有している8ミリフィルムをデジタル化する作業を進めている。たとえば、地域のお祭りや伝統芸能を記録したもの、水害からの復興フィル

ムなど、様々である。そこには、地域の自然や歴史的な建造物が映し出されるだけではなく、その時代を生きた人々の思いが映像を通して伝わってくる。

アナログメディアをデジタル化することは、文化を継承していく上でも重視する作業である。デジタル化された映像が、時代をつなぐ架け橋となり、人と人との心を切り結ぶメディアとなり得る。そのような地域固有の映像メディアを、過去から未来へのアーカイブスとして、視聴覚ライブラリー・センターから提供できていけるのではないかと思う。

#### (4) 地域映像制作とボランティア活動について

映像制作活動を目的としたボランティア・グループが、全国のいろいろな地域で活躍している。

そのような映像ボランティア団体と視聴覚ライブラリー・センターが協力して地域映像制作に取り組むということも、重要な視点である。団体の人材の中には、ビデオ撮影が上手い人や、映像編集が得意な人、ネット配信のスキルに秀でた人もいることであろう。また、映像制作の取組の中で切磋琢磨しながら、映像技法を身に付けていったり、映像制作の楽しさ・面白さにますます惹き付けられていったりすることもある。さらには、映像制作活動そのものが、地域の再発見や地域社会を見つめ直すことにつながるかもしれない。このように、映像制作の場としての視聴覚ライブラリー・センターが、ボランティア活動の取組を支援する。逆に、ボランティア団体の人材が、視聴覚ライブラリー・センターの良き理解者となり、映像教材の制作・供給の機能を促進してくれることも十分考えられる。

ネット社会における地域映像制作・提供事業は、視聴覚ライブラリー・センターを活性化していく契機となり、地域社会との新たな関係性を構築していく可能性があるといえるだろう。

### 3. 参考文献

松田實（2006） 視聴覚ライブラリーマネジメントⅡ．  
視聴覚教育，第60巻，11号，21-26.



# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

**10月25日（土）**

# **大会2日目**

**ポスターセッション**

**団体別分科会**

**合同全体会**

**開会式**

**表彰式**

**記念講演**



# 放送教育 ポスターセッション・全体会

10月25日(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

開会行事.....9:30~10:00 カルチャー棟 小ホール

開会あいさつ

オリエンテーション／放送教育統括指導講師 木原 俊行（大阪教育大学）

全放連基調提案

ポスターセッションについて

ポスターセッション.....10:05~11:10 カルチャー棟 小ホールホワイエ

ポスターセッションでは、全国各地から放送番組を活用した、たくさんの実践が発表されます。ポスターの前では、発表者と参加者が放送教育について、自由に意見交換を行うことができます。放送教育に興味をお持ちの方、情報教育や教科教育の研究に取り組んでいる方など、多様な視点から研究を深めることができるのもポスターセッションのよさです。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



## 参加者のみなさんへ

- 前後半各30分の2交替で行います。
- 発表者に対して積極的に質問や意見をお寄せください。
- 優れた実践を選んで投票していただきます。選ばれたポスターは全体会で表彰します。

## 投票の仕方と評価の観点

投票用紙は会場入口で一人一枚ずつお渡しします。NHKを除くすべてのポスターの中から、下記の観点到照し合わせて「優秀」と思われるものを一点選び投票してください。

- 番組の特性や特徴を踏まえている
- 番組を活用する必然性が明確である
- 番組利用に、継続性や多様性を確認できる
- 番組利用が子どもの成長（学力や人間性の向上）を促している

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 審査委員長 | 浅井 和行／京都教育大学 教授                |
| 審査委員  | 木原 俊行／大阪教育大学 教授                |
| 審査委員  | 福田 哲夫／NHK制作局第1制作センター学校教育番組部 部長 |
| 審査委員  | 守屋 貞紀／全国放送教育研究会連盟 事務局長         |
| 審査員   | 参加者全員                          |

全体会.....11:15~12:10 カルチャー棟 小ホール

NHKプレゼンテーション

ポスターセッション講評・表彰／ポスターセッション講師 浅井和行(京都教育大学)

大会のまとめ／放送教育統括指導講師 木原俊行(大阪教育大学)

# 放送教育 ポスターセッション・全体会

## ポスターセッション発表者一覧

| No | 番組名                             | 学年等        | 発表者   | 所属園・校           |   |
|----|---------------------------------|------------|-------|-----------------|---|
| 1  | しぜんとあそぼ／つくってあそぼ／おかあさんといっしょ      | 幼稚園3・4・5歳児 | 聖霊幼稚園 | 東京聖霊幼稚園         | 前 |
| 2  | からだであそぼ                         | 保育園3歳児     | 砂野 美和 | 松山市立生石保育園       | 後 |
| 3  | こどもにんぎょう劇場                      | 幼稚園3・4・5歳児 | 藤津 和恵 | 山口県野田学園幼稚園      | 前 |
| 4  | おはなしのくに／つくってあそぼ／みてハッスルきいてハッスル   | 小学校1年      | 竹下 佳余 | 東京千代田区立九段小学校    | 後 |
| 5  | 伝える極意                           | 小学校4年      | 佐藤 恭子 | 大阪府茨木市立東奈良小学校   | 前 |
| 6  | 伝える極意                           | 小学校5年      | 田中 啓介 | 川崎市立平小学校        | 後 |
| 7  | 伝える極意                           | 小学校5・6年    | 木下 浩利 | 宮崎県美郷町渡川小学校     | 前 |
| 8  | 伝える極意／わかる国語読み書きのツボ5・6年          | 小学校5年      | 森永 進  | 岡山市立鹿田小学校       | 後 |
| 9  | 伝える極意／わかる国語読み書きのツボ5・6年          | 小学校5年      | 松山 慎二 | 広島県三次市立三和小学校    | 前 |
| 10 | みんな生きている／NHKスペシャル ほか            | 小学校5年      | 大室 健司 | さいたま市立蓮沼小学校     | 前 |
| 11 | 日本とことん見聞録／しらべてゴー！               | 小学校5年      | 水野 宗市 | 宮崎県都城市立高城小学校    | 後 |
| 12 | 見える歴史                           | 小学校6年      | 松浦 智史 | 大阪府守口市立橋波小学校    | 後 |
| 13 | 理科3年 ふしぎだいすき                    | 小学校3年      | 増井 泰弘 | 香川県丸亀市立城北小学校    | 前 |
| 14 | 理科5年 ふしぎワールド                    | 小学校5年      | 細見 隆昭 | 兵庫県丹波市立西小学校     | 後 |
| 15 | さわやか3組                          | 小学校3年      | 松川 厚雄 | 東京杉並区立荻窪小学校     | 前 |
| 16 | みんな生きている／道徳ドキュメント／みてハッスルきいてハッスル | 小学校4年      | 安井 政樹 | 北海道室蘭市立絵鞆小学校    | 後 |
| 17 | 道徳ドキュメント                        | 小学校5年      | 浅香 一世 | 大阪府高槻市立阿武山小学校   | 前 |
| 18 | N響アワー                           | 中学校3年      | 羽広 志信 | 福岡市立百道中学校       | 後 |
| 19 | 10min.ボックス 理科                   | 中学校        | 益野可奈子 | 福岡市立百道中学校       | 前 |
| 20 | 10min.ボックス 古典・漢文                | 中学校        | 桜井 芳雄 | 府中市立府中第十中学校     | 後 |
| 21 | 10min.ボックス 情報・メディア              | 高等学校2年     | 米田 謙三 | 大阪府私立羽衣学園中・高等学校 | 前 |
| 22 | ストレッチマン2                        | 特別支援3年     | 綿谷 彰人 | 大阪市立聾学校         | 後 |
| 23 | NHK学校放送番組の紹介                    |            | 武田 一則 | N H K 学校教育番組部   | 前 |

10月25日(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

研究交流会(一般部会[OB]).....9:30~12:10 センター棟513

講師：西村与志木(NHK) 曾我部泰三郎(全放連OB)

オリエンテーション 9:30~10:00

第1部 10:00~11:00「“坂の上の雲”を取り巻く人々」

来年秋からNHK大河ドラマに匹敵するといわれるスペシャルドラマ“坂の上の雲”が始まる。このほど発刊され、去る2月に放送された「20世紀の平和論者・水野広徳海軍大佐」曾我部泰三郎著が目玉されている。地元の出身者である著者に子規と秋山兄弟との交流等を交え、標題について存分に話していただく。



第2部 11:10~12:10「NHK大河ドラマ“花の生涯”から“坂の上の雲”まで」

スペシャルドラマ“坂の上の雲”は、3年間にわたって13番組を放送する従来にないNHKの大型ドラマである。現在、西村与志木氏は“坂の上の雲”の統括的プロデューサーを務め業務に忙殺される日々を送っている。数々の大河ドラマの企画立案、演出にかかわってきた同氏に大河ドラマの蘊蓄とその情熱を存分に語っていただく。

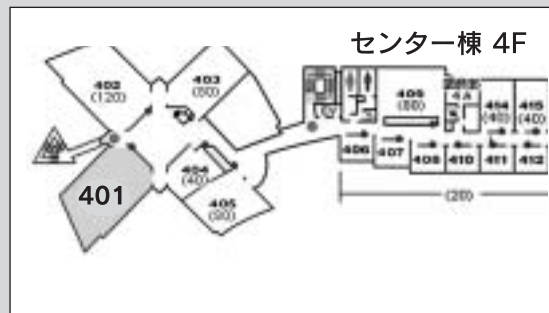


# 視聴覚教育 学視連・全高メディア協一分科会

学視連一分科会.....9:30~12:00 センター棟 401

10月25日(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター



情報活用にかかわる新しい視点として3つの内容を取り上げ、実践の状況とともに今後の方向についてそれぞれの理解をもとに深めていく。

## 実践事例発表会

- ①先導的教育情報化推進プログラム状況報告 .....9:30  
講師 井口 磯夫 (十文字学園女子大学教授)
- ②先導的教育情報化推進プログラム授業実践報告 .....10:15  
東京都 港区立高輪台小学校 寺島 岳

○複数のメディアを効果的・効率的に活用した授業を日常的に展開する取り組みの報告をもとに、これからのICT活用について考える。

- ③地上デジタルテレビへの移行に伴う整備と活用について .....10:45  
文部科学省生涯学習政策局参事官 (学習情報政策担当) 椿 泰文
- ④ケータイの実態と情報モラル教育
- 1) 調査「ケータイの実態と情報モラル教育」集計結果  
品川区立芳水小学校 佐藤 康隆  
新宿区立戸山小学校 三田 暢夫

- 2) 情報モラル教育実践事例報告  
品川区立芳水小学校 佐藤 康隆

○情報モラル教育の推進にかかわって、学校としての取り組みとともに、子どもや、家庭への啓発について具体的に考える。

学視連 臨時理事会.....11:45~12:00

- ・ これからの活動日程
- ・ 平成22年度研究大会について



# 先導的教育情報化推進プログラム

東京都 港区立高輪台小学校 寺島 岳

## 1 研究の主題

現在、児童・生徒の確かな学力を育成するための一つの方法として、教員のICTを活用した授業改善が求められている。

しかしながら、コンピュータ教室にはICT活用の環境が整備されていても、各学年教室には十分の整備されていないとはいえない。また、ICT活用の指導事例や情報が乏しいため、十分な活用が進んでいないという状況がある。

本研究は、各教室において大型提示装置を含むICT機器の構成を利便性やコストに配慮したモデル環境を設定し、それらの機器を効果的効率的に活用するデジタル指導案を作成し、その教育効果を検証するとともに、指導案のデータベース化を目指すことにより、ICT活用の一層の促進を図ることをねらいとしている。

## 2 ICT機器モデル環境

3つのパターンがあるが、大きく次の機種で構成されている。

- 情報提示装置（電子黒板、プラズマディスプレイ等）
- DVD/VHS/CD一体型プレーヤー
- 教材提示装置（簡易型提示装置）
- 簡易コントローラー

簡易コントローラーは、ICT機器の切り替えを簡便活スムーズに行うために開発されたものである。

## 3 モデル環境の活用実態

機器の活用を学習展開からみると、[導入ー展開ーまとめ]では[導入・展開]場面が多い。具体的な活動としては、映像などの情報を「見せる」「伝える」ということや、情報を用いて「説明する」「発表する」という活動が多く見られた。

## 4 授業の実際

①HDDより学習内容に関する映像を選択して視聴する。「昆虫の体のつくり」

②実物投影機を使う。採集してきたバッタを写す、確かめる。



③子どもたちの疑問を解決するために一覧画面から関係するクリップを選択する。



④映像を止めて、子どもたちと確認する。



○日常的に活用することによって、機器の特性を生かした使い方が工夫されていく。

# 視聴覚教育 全視連・全高メディア協一分科会

全視連一分科会..... 9:30～ 12:00 センター棟 5F

10月25日(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

## 分科会① 「著作権と映像メディアサービス」

センター棟510

映像頒布、制作、利用に関する著作権事例研究と、権利者側と利用者側によるパネル討議を行い、映像メディアサービスにおける著作権の取り扱いについての問題と今後の方向を考える。

- ・助言者 坂井 知志 (常磐大学教授)
- ・司会進行 中村 祥一 (千葉県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育班)
- ・コメンテーター 著作権権利者団体担当者 ( (社) 映像文化製作者連盟 )
- 村上 長彦 (東京都足立区青少年センター青少年教育担当係長)
- 梶元 達也 (岡山県生涯学習センター情報課課長)

## 分科会② 「映画活用とその可能性」

センター棟511

生涯学習社会における視聴覚メディア利用の現状を把握するとともに、ネットワーク、デジタルの時代だからこそ持ちうるアナログメディアの力と可能性を再発見する。

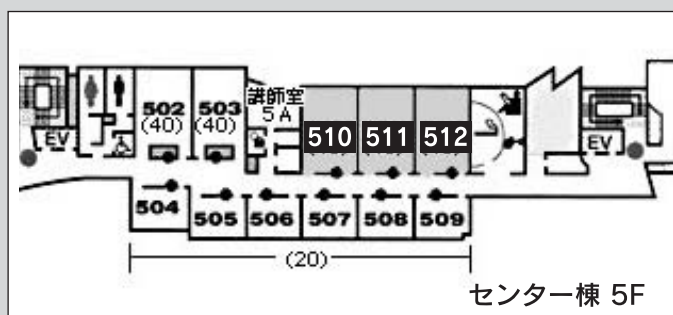
- ・助言者 照井 始 (元千葉県視聴覚教育連絡協議会会長)
- ・司会進行 白井 浩 (せんだいメディアテーク主査兼社会教育主事)
- ・発表者 酒井 登 (東京映像メディア研究会会長)
- 松澤 澄江 (16ミリ試写室 (横須賀市) )

## 分科会③ 「特色あるライブラリーづくりの実践に学ぶ」

センター棟512

全国の様々なライブラリーの特色作りの実践に学ぶ。特色作りの方向として、コンテンツに特色を持たせた取り組み、映像制作や映像利用方法など施設面での特色を持たせた取り組み、など多様な可能性を探る。

- ・助言者 吉田 広毅 (常葉学園大学准教授)
- ・司会進行 出頭 信二 (茨城県鹿嶋市立中野東小学校教頭)
- ・コメンテーター 原田 成夫 (北村山視聴覚教育センター所長補佐)
- ・コメンテーター 丹治 良行 (栃木県総合教育センター生涯学習部社会教育主事)



全高メディア協(高校)一分科会..... 9:30～12:00 センター棟 402

10月25日(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター

## 研究発表 1

秋田県立仁賀保高校 黒木 健 「テレビCMを賢く読み解く」

## 研究発表 2

東京都立大泉高校 田崎 丈晴 「トリック映像制作を通してメディアを学ぶ授業づくり」

## 全視連 分科会① —著作権と映像メディアサービス—

## 映像メディアの複製と著作権

東京都足立区教育委員会生涯学習部青少年センター青少年教育担当係長（社会教育主事）

村上 長彦

足立区教育委員会で社会教育主事として青少年教育事業をはじめ生涯学習事業の運営、生涯学習センターの開設、IT講習会、メディア利用学習などを担当してきた。現在は青少年教育や家庭教育の計画作り、青少年教育事業への支援、PTA活動支援などを担当している。

## 1. 複製される映像メディア

教育の現場において利用される映像メディアが16ミリフィルムからビデオに変わってきた事によって、映像メディアの複製ということが日常的に行われるようになってきた。

## 2. メディアの複製サービス

メディアサービス機関において行われるメディア複製サービスの中に、学校の授業で利用できるようにNHKなどの学習素材として利用できるテレビ番組のダビングサービスがある。このサービスの著作権法上の問題について疑問を持っているが、それ以上に気になるのは、そのテープが現場でライブラリー化されていくということ

の問題である。

## 3. デジタル化と複製

すでにビデオテープにおいても複製防止策が取り組まれていたが、DVDになどデジタルメディアにおいて複製防止策がとられ、放送もデジタル化で複製防止策がとられるようになり、教育の現場における映像メディアの複製の状況も変わってきている。今後、教育現場における複製がどのようになっていくのか、考えてみたい。

## 4. アナログメディアの保存と複製

メディアのデジタル化が進むのと同時に、従来のアナログメディアの再生機器が利用できなくなり16ミリ映写機、スライド映写機、一部ビデオテープ機器など供給を終えているものや、いずれ新規購入ができなくなるであろうアナログメディア機器は多い。すでにアナログメディア教材の保存作業を進めている施設もあるが、その教材の著作権は果たしてどこに所属しているのか、考えなければならない課題は多い。

## 地域の視聴覚ライブラリーの実情と課題

岡山県生涯学習センター情報課課長（岡山県視聴覚ライブラリー連絡協議会事務局長）

梶元 達也

## 1. 地域の視聴覚ライブラリーの実情

## (1) ライブラリー数の推移

## (2) 予算の推移

- ①機材購入費
- ②教材購入費

## (3) 教材保有数の推移

- ①16mm教材
- ②ビデオ等録画教材

## (4) 貸出数の推移

- ①16mm教材
- ②ビデオ等録画教材

## 2. 地域の視聴覚ライブラリーの課題と著作権

## (1) ライブラリー数の推移の見通し

## (2) 予算の推移の見通し

- ①機材購入費
- ②教材購入費

## (3) 保有教材のメディアについて

## (4) 教材の貸出について

## 3. まとめ

## 全視連 分科会②

## —映画活用とその可能性—

## 今、できること～貴重な映像資料の有効な活用を～

東京映像メディア研究会 会長 酒井 登

## はじめに

東京映像メディア研究会は昭和48年に発足した東京都視聴覚教育連盟がその前身であり、平成15年より新しい形で再出発し活動が続けている。

ICTの急速な進展の波にのみ込まれることなく、原点に戻ることの大切さも学びながら、都内各地で活躍している会員の今、を紹介したい。そこには「フィルムで製作された映画のティストはフィルムでこそ」というポリシーを頑なに守っている姿、face to faceのコミュニケーションを求めていく姿が浮びあがってくるように思う。

## 文京区 原口さんの場合

## アカデミー文京 視聴覚ライブラリー

生涯学習指導員 原口 修

## シビックシネマサロンの誕生と経緯

文京区は江戸の面影を色濃く伝える史跡と文化遺産の多い歴史的なまちであり、また伝統ある大学や多くの学校のある文教の地として知られている。子どもと高齢者対策はもとより、区内まるごとキャンパス化を実現し「生涯学習都市・文京」を築いていくことも主要課題の一つである。

ライブラリーは昭和35年に創設され、組織は教育委員会から現在は文京区の指定管理者である（財）文京アカデミーに移ったが業務内容、事業は継続されている。施設は常温常湿のフィルム保管庫、映画上映会場がある。



平成8年4月私は視聴覚ライブラリー専門の社会教育指導員として採用された。それ以前24年間を民間の教育映画会社に勤務。製作、配給、営業と映像のソフト、ハードウェアに通じてきた。この民間での経験から平成10年より区民大学講座「映画のはなし・戦後児童映画の歴史」全10回10作品上映を担当。「野口英世の少年時代」「大きな一年生と小さな二年生」「魔女の宅急便」などを上映。受講生の感想の中に「どの作品も見応えがあった。

この種の作品が散逸しないよう運動することが大切」（40代男性）「これらの名作群をどんどん公開して欲しい。常設館がほしい。」（60代女性）との意見もあり大きな反響があった。区内には映画館・シネコンもなく良質な非商業映画、映像文化及び視聴覚教育の振興の面からも学習の場の提供の必要性があった。当時1280本の映画フィルム保有数とビデオソフトの貸出は児童館、保育園、町内会、幼稚園での利用は多数あったが、小中学校の利用が数校のみで下降をたどっていた。

区民大学講座の各回の反響と合わせ、来庁者、職員を対象にお昼時間（12時15分～13時）に学習室で（63名定員）毎月1回上映することを企画し、平成12年12月第一回「坂・くらしの中の風景・」を上映40名の入場者。以来平成20年10月「カサブランカ」上映で82回を数える。

上映場所の拡大、区内地域施設や図書館での上映会も検討の余地がある。かつて区立小石川図書館では「優秀映画鑑賞会」で著名な映画評論家の解説で定期上映会を催し、全国の優秀映画上映会の先駆的業績は区の誇りである。

運営上の問題も山積である。16ミリ映写機の保守、部品確保、映画フィルムの新作供給、操作技術講習会の指導者不足、フィルム保守点検作業の継承など再教育が早急になされなければ次代に伝わらない。区内で最近、若年の方によるNPO「映画保存協会」と地域の学習団体でライブラリーの保有作品を全て視聴する運動も始まっている。大中企業の製作会社や個々のプロダクションで過去何十年もかけて製作されてきた後世に残すべき価値のある優秀作品を倉庫に眠らせることなく人々の前に現出したい。

カラカラと回る映写機の音と共に、全国各地で名画が映し出され、暗闇の中から感動の涙と笑いと拍手がいつまでも響きわたることを希求する。

## 日比谷図書館 桑名さんの場合

サービス係 視聴覚担当 桑名 民治

日比谷図書館では映画フィルムをどのように活用、提供しているのか

## 1、都立視聴覚ライブラリー（日比谷図書館）の概要

- ・開設昭和32年、現日比谷図書館3階まで 竣工、館報「ひびや」に映画会開催の報告がある。
- ・16ミリフィルムの所蔵本数  
総計 9390本（ホームページで目録公開）
- ・利用規則・・・別途配布資料参照



## ・試行実施中のこと

1) フィルム貸出(多摩地域 着払い宅配便使用可)

2) 登録更新(郵送にて可)

・都立視聴覚ライブラリーの経過

・日比谷図書館の今後の見通しと都立視聴覚ライブラリー(フィルムライブラリー)の今後

## 2、16ミリ映画フィルムの利用状況

・年間貸出・・・別途配布資料参照

・日比谷図書館映画会・・・

当館では、毎月第2、第4水曜日の午後2時から定例映画会、第5水曜日の午後2時から特別上映会を開催している。上映作品は毎月テーマに基づいて選定しているが、館内外のイベントと連動した作品の上映も行っている。平成19年度は、リンドグレーン生誕100周年記念として「長くつしたのピッピ」、チャップリン没後30周年記念として「チャップリンのカルメン」と「黄金狂時代」を上映したほか、人権週間特別上映として「襤褸(らんる)の旗」を上映した。3月には「雨あがる」、「明日に向かって撃て」などの4作品の上映会を開催した。

来場者アンケートは、今後の映画会開催の参考とするために行っている。

平成19年4月～平成20年3月

映画会開催回数 30回

映画会来場者数 5,838人

アンケート回収数 2,827枚 (回収率 48.4%)

## 1 来場者について

| (1) 年代 | (人)   |
|--------|-------|
| 10代    | 3     |
| 20代    | 25    |
| 30代    | 27    |
| 40代    | 66    |
| 50代    | 542   |
| 60代    | 1052  |
| 70代    | 1079  |
| 未記入    | 33    |
| 計      | 2,827 |

映画会を実施しているのが平日の午後ということもあり、60代、70代の方が全体のやく70%を占めている。

| (2) 性別 | (人)   |
|--------|-------|
| 男性     | 1923  |
| 女性     | 788   |
| 未記入    | 116   |
| 計      | 2,827 |

男性が70%弱を占めているが、上映作品によっては女性の比率が高くなった回もあった。

来場者の住所、映画会を知った方法、来館目的、映画の感想、「良かった」の割合が高い作品、入場者が多かった映画会、・・・については(別途配布資料)図書館の行事として定着している映画会は来場者にも好評。「良かった」「まあ良かった」の合計が2221人(83.9%)で来場者の満足度は高くなっている。これは映画館で上映することの少ない劇映画や記録映画を上映することが多く、上映作品の選定に対しても評価されていると推測している。「つまらなかった」という感想は少ないが、古い映画で画質が良くない場合は相対的に評価が下がる傾向が見られ、画質等についてのコメントが寄せられている。今後、上映作品の選定にあたっては画質にも配慮していくつもりです。

## 府中市 設案さんの場合

府中市視聴覚研究会 設案 厚子

## 映画活用とその可能性

私たち府中市視聴覚研究会は昭和62年発足の団体です。府中市内の16ミリ映写機の検定を現在も続けています。講習会は2年前から窓口で職員から学べば利用することが出来るようになり、団体としてそれをフォローしている。検定はするものの利用していない施設・機材が多く「勿体ない」精神から文化センターでの映画会をするようになった。

市民は映画に何を期待し求めているのか。

○娯楽

○映画監督の心にふれる

○教育的観点より基礎学習の導入の共有化

○市民大学などの映画講座評論家の評価そして新たな活用を考えると

○施設での映画活用の狙いをはっきりさせる

○依頼団体があればフォローする

○映画の仕組みを子どもたちに示し興味を持たせる

○基本的な教示をはっきりさせ同時視聴の大切さを考える

数年前まで「映画まつり」を実施していたが、ビデオ制作発表が盛況になるにつれ映画まつりは縮小された。そこで各施設の担当者と話し合い「出前映画館」を提唱した。児童館担当、高齢者担当の話を聞き依頼されれば出前上映をする。鑑賞時のマナーなどを話し合ったり、終了後クイズ形式で映画の映るわけなどを話したりしている。

各文化センターの映画会・子供映画会・高齢者映画会・伝統行事映画会・夏休み映画会などで常に70名から150名ほどの参加がある。

映写技師としての最大の喜びは「今度はなにやるの」と聞かれることと「ありがとう」の言葉です。かわいい

手で握手を求められたこともあります。

残念なのは教材の老朽化です。今後の大きな課題のひとつです。

#### 荒川区 仁平さんの場合

荒川AVM 仁平 安子

昭和58年7月、区の専門職からの声掛けで発足。今年で26年目に入る。現在会員数は20名。

当初は視聴覚教材の16ミリ映画を中心に毎月一回の鑑賞会を行った。16ミリ映画には生活の糧になる話題や子育てに参考となる内容のものが多く、会員が子育て時期には市民生活・家庭教育・児童劇などの教材映画を選んで視聴し、問題の糸口をみつけながら話し合いの場を持ってきた。同じ映画を観ても各自の考え方の違いがあり、意見交換の中からは自分が置かれている問題の解決につなげ、心の栄養剤にもなっていたと思う。

文化センターで「区民のための映写会」を催すなど活動を広める一方、16ミリ映画にこだわらず話題になっている映画や50年、60年前の名画を鑑賞し現代でも劣らない映像の素晴らしさを再認識している。

情報社会・映像社会の進歩に遅れないようにと映像に関する催し、施設の見学などにも積極的に参加して知識を広め、深めるよう努めている。

ビデオやDVDが主流になり、16ミリ映画の活用は盛んではないが、それにこだわらず地道に活動を続けたいと思っている。



## どこでも素敵な映画館活動

16ミリ試写室（横須賀市）

松澤 澄江

## 1 はじめに

横須賀市は、昨年市制100周年を迎えた人口42万の中核都市、豊かな海と歴史の街である。16ミリ試写室は、1977年（S52年）市教委社会教育課の指導のもとで、16ミリ映写機操作技術認定証を持つ女性の団体として誕生。1982年（S57年）以来市から16ミリ映写機による映写活動を受託し、感動する心豊かな子どもたちを育み、潤いのある住みよい地域社会づくりを目指して、16ミリ映画の上映活動を続ける小さなボランティア団体である。

市では、1984年（S59年）市や市教委に分散管理されていた視聴覚関係資料や機材を集めて、市中央図書館に視聴覚ライブラリーを設置した。現在、16ミリフィルム・機材の団体貸出しとCD、VDやDVDの館内視聴や個人貸出し及び視聴覚ホールの運営等の業務を行う。当初から専任の職員はいない。

この度機会に恵まれて、過去の映像である16ミリ映画を利用し続ける当会の活動の一端をご紹介します、16ミリ映像資源の保存や有効活用についてご指導いただき、併せて情報交換をお願いしたい。

## 2 会の概要

発足は1977年（S52年）、会員は22名、平均60歳台の女性、年会費3000円。ボランティアのこころ（自発性、無償性、公共性）を大切に、運営・活動に取り組む。会合は定期総会、役員会、定例会、委員会などである。定期総会でその年の活動目標と活動のキーワードを決める。役員会は月1回、役員5名で定例会の議題などを検討する。定例会は月1回、年間計画で日程、場所および全会員による司会係と記録係の分担を決めて開催。議題は各委員会企画事業の検討、映写活動の報告や課題、予定映画会の分担など。今年度は研修委員会、広報委員会、有料上映実行委員会、記念誌編集委員会等を置き、全会員がかかる。

また、生涯学習センター等に団体登録し、他団体との交流、情報交換、人的ネットワークづくりにも努める。

## 3 実践活動の概要（過去5年間の活動）

映写活動を中心に、研修活動そして広報活動が主ものである。2005年から、会員が活動しやすいように、年度初めに各活動の年間計画や年間会合予定を時系列にまとめ、「年間活動予定一覧表」を作成、配布する。

表1 「活動実績一覧表」

| 活 動 の 実 績 |      |      |      |      |      |
|-----------|------|------|------|------|------|
| 活 動 内 容   | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 |
| 映写活動      |      |      |      |      |      |
| 映画会       | 164  | 158  | 178  | 147  | 152  |
| 自主映画会（※）  | 10   | 20   | 14   | 18   | 20   |
| 定期訪問映画会   | 62   | 56   | 59   | 61   | 62   |
| 依頼映画会     | 49   | 44   | 60   | 37   | 40   |
| 委託映画会     | 43   | 38   | 45   | 31   | 30   |
| 上映実行委員会   | 14   | 24   | 17   | 12   | 13   |
| 研修活動      |      |      |      |      |      |
| 研修会       | 13   | 7    | 13   | 13   | 18   |
| 研修委員会     |      | 7    | 6    | 7    | 8    |
| 広報活動      |      |      |      |      |      |
| 広報委員会など   | 15   | 17   | 13   | 17   | 14   |
| その他の活動    | 30   | 3    | 6    | 5    | 12   |
| 合 計       | 236  | 216  | 233  | 201  | 217  |

（※） 有料上映会、なつかしの映画会を含む

## 1) 映写活動

## ①どこでも素敵な映画館をめざした活動

主に県や市の視聴覚ライブラリーが所有する16ミリフィルム・機材を利用する無料の映画会で、年間百数十回になる。非日常の暗い所で大勢で観る16ミリ映像の特徴や活動ノウハウを活かし、どこでもいつでも素敵な映画館にしようがモットーだ。

- I 自主映画会（小さな地域の会主催の映画会）
- II 定期訪問映画会（市内12か所の福祉施設で開催）
- III 依頼映画会（学校や保育園、またこども会、老人会などの市民団体から依頼の映画会）
- IV 委託映画会（図書館、コミュニティーセンターで開催）

内容はお楽しみ映画会（社会教育的作品、地域の記録作品、良質なアニメや児童劇作品）や有料レンタル作品の鑑賞会。数は少ないがフィルムフォーラムによる学習会もある。1部を除き、主催者の要望に応じフィルムを選定し、会場作りをする。身近な会場で学び、楽しんでもらえるように、地域の素敵な映画館づくりに力を注ぐ。

## ②有料上映活動

一般の映画館では上映されないメッセージ性の高い優れた映像を広く市民に廉価で提供することを目的に、全会員が1年がかりで準備する手づくりの有料映画会である。2000年から開催し、今年度10回目。自然、子育て、人の生き方などがテーマのノンフィクション作品が多い。

- 第5回 安藤為次賞受賞記念 講演と映画の会 (2003)  
講演「自然への感性とは」柴田敏隆氏  
映画「センス・オブ・ワンダー」  
入場料 800円 (前売り600円) 入場者 429人
- 第6回 「地球交響曲第五番」(2004年)  
入場料 800円 (600円) 入場者 392人
- 第7回 トーク&シネマ (2006年)  
講演「失われた日本の心」恩地日出夫監督  
映画「わらびのこうー蔵野行」  
入場料 1000円 (800円) 入場者 578人
- 第8回 チャリティ映画会トーク&シネマ (2007年)  
講演「命とともに」神山清子氏  
映画「火火」入場料1200円 (1000円)  
入場者717人
- 第9回 市制100周年記念市民主催事業 (2007年)  
「地球交響曲第六番」&鈴木慶江ミニ・コンサート  
入場料2500円 (2000円) 入場者 954人

### ③なつかしの映画会活動

福祉施設入所者を対象に、映画館のような雰囲気でも古い娯楽映画を観ていただく企画。2004年から有料映画をレンタルして、「あんま太平記」「悲しき口笛」「喜劇水戸黄門漫遊記」などを上映。本年度第5回目を実施予定。

### 2) 研修活動

もともと、自主学習グループとしての性格が強く、現在も研修活動に力を入れる。活動に必要な視聴覚機材の操作技術などのほか、会員の感性を養い、親睦をはかることも目的に幅広い学びの場である。当初から熱心にご指導下さった社会教育主事は10数年前に他界され、特定の指導者やアドバイザーはいない。

- ①視聴覚機材の操作技術研修会 (毎年、会員対象1～2回と市民対象1回)
- ②施設見学会 (毎年1回)
- ③パソコン研修会 (H11年開始、毎年1～2回)
- ④身近な自然を知ろう (毎年1回)
- ⑤講演会や出前トーク、ワークショップ 等

### 3) 広報活動

広報紙「16ミリ試写室だより」の発行 (年4回)、リーフレット「16ミリ試写室」の更新、会の活動展示紹介など。広報紙は外部関係者や団体、市民にも配布。また、有料上映会開催や多くの市民団体との交流、人的ネットワークづくり等もこの活動の一部である。

### 4) その他の活動

- ①バザー活動 資金の調達と不用品リサイクル。
- ②記念誌や記録誌の発行 会の節目の年には記念誌「かがやき」を発行。今年度5冊目を編集。また、昨年、市制100周年市民主催事業の実施記録をパソコンで編

集・発行した。

## 4 実践の成果と課題

### 1) 実践の成果

#### ①楽しみながら会員の自己実現を計る。

会員が実践活動を通して得たものは大きい。専業主婦の会員が仲間とともに社会参加し、主婦業では体験できない貴重な体験をととして自己実現を計っている、実践活動全てが学びの場である。

#### ②映画会に参加した方々の成果は？

##### I 映画がきっかけで始まった活動

一例として、第4回有料上映会の映画「こどものそら」に参加したある学童クラブ関係者や学童たちが、自転車ツアーを企画し毎年行っている。また、参加者の温かな心を集めて、骨髄移植関係団体や新潟中越地震被災者等に寄付したこと。

##### II 子どもたちの心に数々のメッセージを届ける

非日常の暗い所で大勢の友だちと一緒に見る映画会の体験をとおし、やさしさ、思いやり、友だちづくり、平和、正義感などのメッセージを素直に受け止めてくれる子どもたちが多い。

##### III 身近な地域の伝統や史跡、歴史を伝える

地域のドキュメンタリー作品の上映会では、参加者にとって新たな発見があり、当時の様子や登場する人々を通して地域を理解する一助となる。

##### IV 「映画の力はすごい！」お年寄りの変化

お年寄りの施設で、懐かしいふるさとの思い出や体験などと重なる古い娯楽作品等を上映する。無表情のお年寄りが楽しそうに笑う、自ら思い出話をするなどの変化がみられ、「映画の力はすごい！」と施設職員からの報告である。

### 1) 課題

#### ①会員の減少と高齢化

5年前は31名の会員が今22名、この間の入会者が3名。若い入会者がなく、確実に年々高齢化。

#### ②16ミリフィルム・機材の老朽化

1998年以来、市ではこれらの新規購入がない。老朽化の中で、映写中のトラブルが多く安心して活動ができない。

#### ③16ミリ映像に代わる視聴覚資料・機材の整備

市ライブラリーで、16ミリ映像関係に代わるDVDの映像資料や機材等を早急に整備し、団体貸出してほしい。

## 5 今後の取り組み

- 1) DVDを活用する活動に取り組みたい。
- 2) 有料映画会を気軽に開催できる環境づくり

## 全視連 分科会③ —特色あるライブラリーづくりの実践に学ぶ—

## 特色あるライブラリーづくりの実践に学ぶ

山形県北村山視聴覚教育センター所長補佐 原田 成夫

北村山視聴覚教育センターでは、プラネタリウムや映画を利用した地域住民・児童生徒などを対象とした学習事業や、視聴覚機器に関する研修、地域教材の制作事業等に主に携わっている。

視聴覚センター・ライブラリーは、大きな変換期の中にいる。従来からのライブラリー機能に加え、私たちを取り巻く教育メディア環境が大きく変化し、これに対応することが求められている。全視連加盟団体に対する近年の調査内容等をみるとさまざまな運営方法により、特色ある運営を行っている施設と、従来のライブラリー機能を中心とした施設に大きく分かれているような感じさえする。また、行財政改革や組織の統廃合などにより、廃止や事業の縮小などを余儀なくされているセンター・ライブラリーも多くなってきているのが現状である。

今後センター・ライブラリーが地域住民に必要とされるためにはどのような事業展開が必要とされるのか各地

の特色あるセンター・ライブラリーの事業等みると次の点に大きな特色があるように思われる。

- 地域住民のニーズにあった機材・教材の貸出や研修事業の展開
- 地域教材や学習素材等の自作による学習情報の発信
- 他機関や団体との連携や支援ボランティアの発掘と育成

いずれにしても、センター・ライブラリーは、地域住民の必要性があつてこそ、存続できるのであり、めまぐるしく変化する情報環境の中にあつてセンター・ライブラリーは必要不可欠な存在なのである。

また、そのためには地域において、どうしたらセンター・ライブラリーが地域住民の中にとけ込んだ事業を展開することができるのか。大いに議論すべきところではないだろうか。

## 特色あるライブラリーづくりの実践に学ぶ

栃木県総合教育センター生涯学習部社会教育主事 丹治 良行

栃木県総合教育センター生涯学習部では、「研修事業」「学習機会の提供」「学習相談・情報提供」「調査研究」「市町・学校・団体等への支援」を基に生涯学習振興業務にたずさわる。

視聴覚センター・ライブラリー（以下、「視聴覚センター」という）は、従来から視聴覚教材・機材を収集・保管し、学校、社会教育施設、住民等の利用に供する等して視聴覚教育を振興する機関である。しかし、地域社会における情報環境の整備等に伴い、視聴覚センターは新たなメディア利用の在り方にも対応せざるを得ない状況になっている。そこで、平成18年度から実施の教育メディア利用推進研究事業「調査研究1 これからの視聴覚センター・ライブラリーモデル事業事例研究」で取り上げられた事例を基に、「特色あるライブラリーづくり」を考える上で参考となる視点を以下のようにまとめた。

- 学校、他施設、地域住民等との連携
- 地域映像教材（映像・写真）の開発促進と提供及び後世に継承する教材のデジタル化

- 視聴覚センターから積極的に実施する出前映像サービス

- 映像ボランティア等による視聴覚センター事業支援と地域住民への学習機会の提供

いずれにしても、各事例に共通することは、視聴覚センター職員が現状と課題を把握し、実施可能な事業を検討し、事業化しているところにある。「特色あるライブラリー」は一朝一夕にできるものではない。

視聴覚センター職員が主体となって、他機関等の連携、ボランティアの養成、地域映像教材の継承等、知恵を絞り視聴覚教育の振興を図ると共に、地域づくり、まちづくりに貢献しようと努力する熱意と情熱が「特色あるライブラリー」をつくりあげるのであろう。

MEMO

[illegible]



# 全国メディア研 (高校)—分科会

①

## テレビCMを賢く読み解く ～高等学校芸術（美術）の取り組みから～

秋田県立仁賀保高等学校 教諭 黒木 健

### 1 題材設定の理由

テレビ、インターネットなど、昨今のメディアの大きな変化（高度情報化社会）は、生徒の普段の生活に多様な影響を与えている。このような社会の中において生徒たちに期待されることは、メディアを使いこなし、適切に情報を理解し、健全な情報発信者になることである。しかし、生徒たちの現状は「情報の受け手（消費者）」として多くの時間を費やしメディアと関わっている。

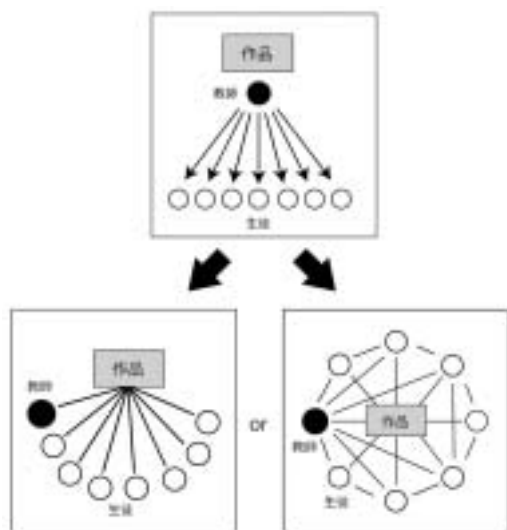
溢れる情報を鵜呑みにすることなく、客観的な立場からクリティカル（批判的）に情報を理解することで賢い情報消費者としての資質を高めさせたくこの題材を設定した。

### 2 実践の方法

#### (1) 「対話による鑑賞」の方法を用いる

「対話による鑑賞」は、教師の教えを請うのではなく、対話を活用しながら学習者である生徒が主体的に学ぶ授業である。

参考：「対話による鑑賞教育」  
(上野行一著 光村図書出版発行)



教師指導型の鑑賞から、対話による  
鑑賞授業への変化のイメージ図

対話による鑑賞は、学校教育界だけでなく昨今の社会教育界でキーワードとなっている様々な事柄とも関連する魅力的な授業方法でもある。



#### 「対話による鑑賞」のイメージ図

オープンエンドの効果に期待し、授業の成果が今後の生活につながるよう配慮する。

#### (2) マンガを導入に用い、ポスター広告、テレビCMへ展開していく（サブカルチャーの活用）

動的で複雑なCM分析を唐突に行うのではなく、シンプルかつユーモアのある一コママンガを導入として用いることにより、生徒全体がスムーズに授業の流れに乗ることが出来るよう配慮した。



「なぜ博士は怒っているのか」  
(池谷伊佐夫著 東京書籍発行) より

### (3) 複数教科・科目の授業担当者の協力を得る

テレビCMの読み解きについては、テレビCMの内容だけでなく、概容についても説明する必要があるため、その部分については商業科目教師、内容については美術、音楽、国語、公民各教師が担当し5名によるチームティーチングを行った。

### (4) クリティカル・シンキングに基づく指導を行う

テレビCMの読み解きについては、とすれば視聴者である自分たちは、思考を操作されているような「否定的」な感覚に陥ることが多いため、民放放送番組などの「テレビCMの制作舞台裏」といった番組も視聴させ、テレビCM制作に関わる工夫や努力といったものを紹介しながら、良いところ、注意すべきところを網羅した「批判的」なものとなるよう留意した。

## 3 授業の実際 「テレビCMの読解」

【学習者】3年生（男子18名、女子22名）

【題材テレビCM】

CM1 ロート製薬 アルガード（鼻洗浄液）

CM2 コジマ電気 大売り出し

CM3 アサヒ チャージ（清涼飲料水）

CM4 P&G ファブリーズ（消臭用品）

CM5 P&G ファブリーズ（消臭用品）

CM6 不二家 カントリーマアム（菓子）

【展開】

- ①今日の授業の全体の流れの説明
- ②生徒記入用紙の配布
- ③テレビCMの表現形式の分類資料の配付
- ④なぜ民放テレビは無料で見ることができるのかを商業の教師より簡単に説明
- ⑤テレビCMの視聴と内容記入  
→国語の教師よりメモの取り方の説明
- ⑥各テレビCMの内容や感想を「対話」により明らかにしていく。対話の中には各教科・科目の担当教師も含め、対話の内容を深めていく。
- ⑦授業反省・感想の記入

## 4 研究の成果とまとめ

### (1) 成果

授業実施後のアンケートは、授業直後と約2週間後の2回実施した。

直後のアンケート結果からは、それまでいかに散漫にテレビCMを視聴していたかを反省する文と、こんなにもテレビCMの世界は奥が深いものかを強く感じたという内容が大半を占めた。中には普段から画面上の小さい文字に留意して視聴していた生徒や、家族との会話の中で内容に踏み込んでいるケースも若干ではあるがみられた。

また、約2週間後のアンケートからは、多くの生徒がCMの中の文字や言葉、CMの場面設定に注目するようになるなど授業の成果が継続して生活に活かされていることが分かった。

これらのことから、通常生徒はテレビCMを批判的に視聴してはならず、見方感じ方を提示されることによってその後は明確に意識が変化することが明らかになった。

また、対話による鑑賞方法についても教師の言葉よりも生徒相互の言葉にとっても効果があると感じた生徒が大半であり、対話をすることにより授業への参加意識が格段に向上することも明らかになった。

### (2) 今後の課題

年度によってはこのような授業を踏まえて実際に学校紹介を想定したテレビCMを制作したこともあったが、うまく年度内のカリキュラムに設定しないと他の題材設定や学校行事や定期考査の影響から、授業効果が低いものとなったり、制作物そのものが完成に至らないケースもあった。季節や授業周辺の事項を十分に考慮・把握した上での年間カリキュラムの設定が大切であることを痛感している。

今回の授業では録画したテレビCMを編集してDVDに録画したものを活用したが、これまでのビデオテープのような頭出しのためのデッドタイムが無いなどの低ストレスの効果があった。また、DVDは複製・保存が容易なことから、著作権に留意した上で他校教員との連携を図っていくことも可能となると思われる。



## 全国メディア研 （高校）—分科会

②

### トリック映像制作を通してメディアを学ぶ授業づくり

東京都立大泉高等学校 教諭 田崎 丈晴

#### 1. はじめに

本稿では、平成19年度に東京都立大泉高等学校（以下、本校）における必修科目「情報A」でメディアを理解することをテーマに実施した授業実践について報告する。本実践では、廉価なムービーカメラを使ってトリック映像を制作する過程を通して映像の特性を短時間で楽しく理解できるよう工夫した。

#### 2. 本授業のねらい

筆者は、必修科目の中で取り組む情報教育において、生徒が現在そしてこれからも接していくであろうマスメディアに関して理解を得るための授業をできる限り短時間で取り入れるために、テーマを「映像」に絞り、次の3点について生徒が主体的に理解できる授業を計画した。

1. 映像は影響力の大きいメディアである
2. 映像には制作者側の意図は必ず入る
3. 映像に収録される光景は、現場の一部である

この3点について生徒が楽しく意識できるよう、筆者は「ワンカメラマジック」というトリック映像を生徒に制作させることとした。

トリック映像を制作する「情報の送り手」の立場の経験を通して、映像を見る眼を養うことを指導の目標としている。

#### 3. ワンカメラマジック

本節では、生徒が制作する映像についての課題と、課題設定の意義について述べる。

本実践において生徒が制作する映像は、マジシャンのマルコ・テンペスト氏がウェブサイト「YouTube」等で公開している「ワンカメラマジック」を再現したものである。ワンカメラマジックは、1台のカメラを用いてカメラワークや構図の取り方等工夫して映してよい風景（マジックとして見せるもの）と映してはならない風景（しかけがわかってしまうもの）を区別しながらノーカットで撮影し、あたかも不思議な現象が起こったように見せかける映像である。マルコ・テンペスト氏は携帯電話のカメラ機能を使って作品を撮影しており、身近な機器で楽しく作品制作ができる。

ノーカットで撮影するので、制作者はカメラワークや出演者の動き等工夫して映像を構成する。しかけは映さ

ず、見せたいものだけをカメラの前に順次出すので、技術的な編集でなくとも編集効果を期待できる。

以上のことから、ワンカメラマジックは「何かを撮ることは何かを隠すこと」（文献1）を身近な機器を用いて楽しみながら取り組める題材として優れている。さらに、授業展開の面においても撮影する内容が明確であることにより企画や撮影に充てる時間が少なく済み、必修の授業における実習として許容可能な時間数でメディア学習が可能というメリットがある。

#### 4. 授業実践の概要

##### 4.1 配当時間

平成19年度は第2学年の情報A（2単位）および第3学年の情報A（1単位）で実践した。配当時間は第2学年・第3学年ともに14授業時間で予定した。なお、本校における1授業時間は、50分である。14授業時間の内訳を次に示す。

- 1 班決めおよび課題決定：2時間
- 1 企画：4時間
- 1 マスメディア関係座学：2時間
- 1 撮影：4時間
- 1 相互評価およびまとめ：2時間

第2学年は2学期に実施し、第3学年は1学期から2学期にかけて実施した。第2学年は2時間連続授業のため予定通り授業を進行できたが、第3学年は1回あたり50分の授業なので、予定より多くの授業時間を必要とした。

##### 5.1 実践

実習は4人1組でグループをつくり、作品を企画する。生徒が撮影する作品を企画するためには、まずYouTubeにアップロードされている「課題」（以下原作）に対する理解が必要である。そこで、原作のストーリーの流れやカメラワーク、そしてしかけを使うタイミング・方法を分析して絵コンテ形式でまとめさせ、原作に対するしかけやストーリーに対する理解を明確にした。その後、実際に制作する作品のストーリーや撮影場所の選定そして役割の分担など撮影の準備をこれも絵コンテに必要な事項を書くという方法で作業させた。

撮影はマスメディアに関係した座学を実施した後に準備のできた班から実施した。教員は活動場所をまわりながら仕掛けの配置や映像の解像度や撮影フレーム数を落

とす等工夫が必要である等アドバイスした。

撮影後、相互評価を行った。観点として、ストーリーの流れや仕掛けの出来栄などを設定した。ほとんどすべての生徒が制作者の立場で優れている工夫や課題となった点などを見る展開になったので、評価される班にとっては緊張感のある厳しい時間となった。まとめでは、再度学習のねらいおよび座学での要点と実習との関係を確認し実習を終えた。

## 6. おわりに

本稿では、本校必修修科目「情報A」において、映像の性質について簡単に学べる映像制作実習の実践を報告した。トリック映像を題材にすることにより撮影に必要な物品の準備や企画・撮影の手間がかからず、教員が予定したスケジュールで授業が進行できることができた。また、生徒の意欲を引き出し、主体的に映像を読み解く動機付けを与えられたと考えられる反応もみられた。

## 参考文献

[1] 森 達也：「世界を信じるためのメソッド ぼくらの時代のメディア・リテラシー」、p.96、理論社（2006）。

2日目

# 合同全体会

カルチャー棟 小ホール

主催者挨拶・来賓挨拶.....13:30

全国放送教育研究会連盟理事長 三角 哲生  
NHK制作局長 茂手木秀樹  
文部科学大臣祝辞

表彰式.....13:45

各団体別功労者表彰

記念講演.....14:30~15:45



## 「5分間の勝負」

深町 幸男 氏  
(テレビドラマ演出家・映画監督)

私は「人との出会い」というものを最も大切に思っています。今までの作品でも早坂暁さん、山田太一さん、故人の向田邦子さんを始め俳優の皆さん、スタッフの皆さんとの出会いがあったからこそ、現在の私があります。

ご参集の方々は、教育界にあって映像に関心と理解のある方々と伺っておりますが、テレビと映画（わが国では何故か、テレビや舞台は演出、映画は監督と呼ぶ）という枠を越え、超越した映像の世界を皆さまとともに考え、私深町なりのメッセージを発したいと思っています。

「人との出会い」とともに「映像の世界」は、5分間の勝負なのです。

日本を代表するテレビドラマ演出家。1930年生まれ。早稲田大学仏文科卒業。新東宝映画入社、その後10年を経て、1963年NHK入局。「夢千代日記」「花へんろ」「あ・うん」「今朝の秋」等を演出、NHKを退職後NHKエンタープライズ、東北新社等で活躍。最近では映画「長崎ぶらぶら節」を監督した。

閉会式.....15:45

抽選会.....16:00

## 平成20年度 各団体功労者

| 平成20年度 全国放送教育研究会連盟功労者       |        |                                                 |
|-----------------------------|--------|-------------------------------------------------|
| 愛媛県                         | 大村 一二三 | 前 愛媛県幼稚園保育所放送教育研究協議会会長                          |
| 滋賀県                         | 桑原 淑子  | 前 滋賀県放送教育研究協議会副会長                               |
| 北海道                         | 小西 雅夫  | 前 北海道地方放送教育研究協議会会長                              |
| 滋賀県                         | 駒井 聡   | 前 滋賀県放送教育研究協議会会長                                |
| 大阪府                         | 坂本 憲悟  | 前 近畿放送教育研究協議会事務局長                               |
| 徳島県                         | 橋本 成子  | 前 徳島県放送教育研究協議会事務局長                              |
| 東京都                         | 三好 みち子 | 前 全国放送教育研究会連盟副理事長                               |
| 高知県                         | 山本 健吉  | 前 高知県放送教育研究協議会会長                                |
| 平成20年度 日本学校視聴覚教育連盟賞         |        |                                                 |
| 宮城県                         | 澤口 政弘  | 視聴覚研究部会参与・常任委員                                  |
| 千葉県                         | 斎藤 好賢  | 県視聴覚教育研究会事務局次長                                  |
| 東京都                         | 小谷津 亨  | 都小学校視聴覚研究会副会長                                   |
| 長野県                         | 塩原 操   | 県視覚・放送教育研会会長                                    |
| 長野県                         | 永井 和幸  | 県視覚・放送教育研究会副会長                                  |
| 愛知県                         | 小久保敏夫  | 県学校視聴覚教育研究会会長                                   |
| 名古屋                         | 野呂 幸司  | 情報教育研究会事務局長                                     |
| 岐阜県                         | 安藤 忠典  | 県情報教育研究会事務局長                                    |
| 滋賀県                         | 駒井 聡   | 県教育研究会視聴覚教育部会長                                  |
| 大阪市                         | 升田 文郎  | 小学校教育研究会視聴覚部副部長                                 |
| 大阪府                         | 岡森 真弓  | 府放送視聴覚教育研究会事務局長                                 |
| 高知県                         | 山中 正男  | 高知市視聴覚教育研究会副会長                                  |
| 山口県                         | 山本 龍臣  | 高等学校視聴覚部会研究委員                                   |
| 平成20年度 全国高等学校メディア教育研究協議会功労者 |        |                                                 |
| 千葉県                         | 大竹 好文  | 元 千葉県立佐倉西高等学校長・元 千葉県高等学校教育研究会視聴覚部会会長            |
| 平成20年度 全国視聴覚教育連盟功労者         |        |                                                 |
| 岩手県                         | 盛川 憲子  | 元 岩手県中部地域視聴覚教育協議会事務局員                           |
| 山形県                         | 村井 明   | 元 鶴岡市視聴覚センター社会教育部会員・現 鶴岡市教育委員会社会教育指導員           |
| 茨城県                         | 玉造 新一  | 元 新利根村社会教育主事視聴覚教育担当・稲敷広域視聴覚ライブラリー運営委員           |
| 栃木県                         | 小山 幸一  | 現 ボランティアグループ「大平町ビデオクラブ」会長・現 大平町文化協会副会長          |
| 埼玉県                         | 設楽 敬一  | 元 子どものメディア文化研究会副会長兼事務局長・元 埼玉県視聴覚放送研究団体連絡協議会副幹事長 |
| 千葉県                         | 渡邊 敏樹  | 元 旭地域教育情報センター協議会事務局次長・事務局長                      |
| 神奈川県                        | 矢後 義雄  | 現 視聴覚教育ボランティア「相模原市16ミリ映画研友会」会計                  |
| 岐阜県                         | 五十川保彦  | 元 久瀬村視聴覚教育協議会会長・元 岐阜県社会教育視聴覚教育連絡協議会監事           |
| 愛知県                         | 福岡 隆   | 現 知多地方視聴覚ライブラリー教材管理部員                           |
| 愛媛県                         | 河井 積   | 元 愛媛県視聴覚教育協会監事・現 砥部町中央公民館長                      |
| 福岡県                         | 境 秀昭   | 現 ボランティア団体「大牟田視聴覚教育クラブ」支部長                      |
| 沖縄県                         | 嘉数 好雄  | 元 沖縄県教育庁社会教育課主査                                 |
| 仙台市                         | 下河辺行政  | 現 「仙台視聴覚同好会」総務                                  |
| 北九州市                        | 長谷川英代  | 現 「北九州市小倉北区AVEの会」理事                             |

# 視聴覚教材・機材等展示研究会

## 第44回「教育の近代化展」出展協賛社

主催：（財）日本視聴覚教育協会／日本視聴覚教具連合会

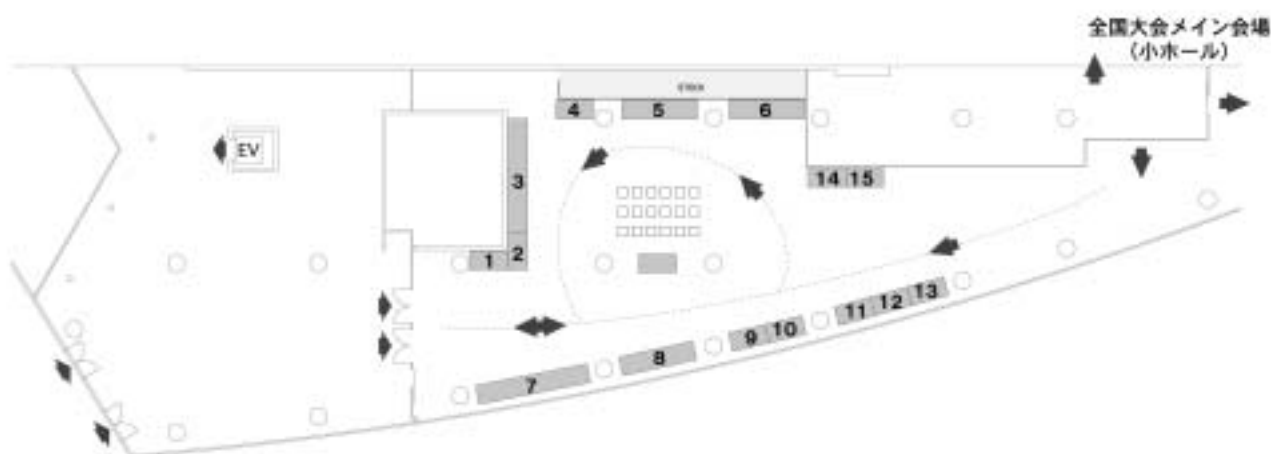
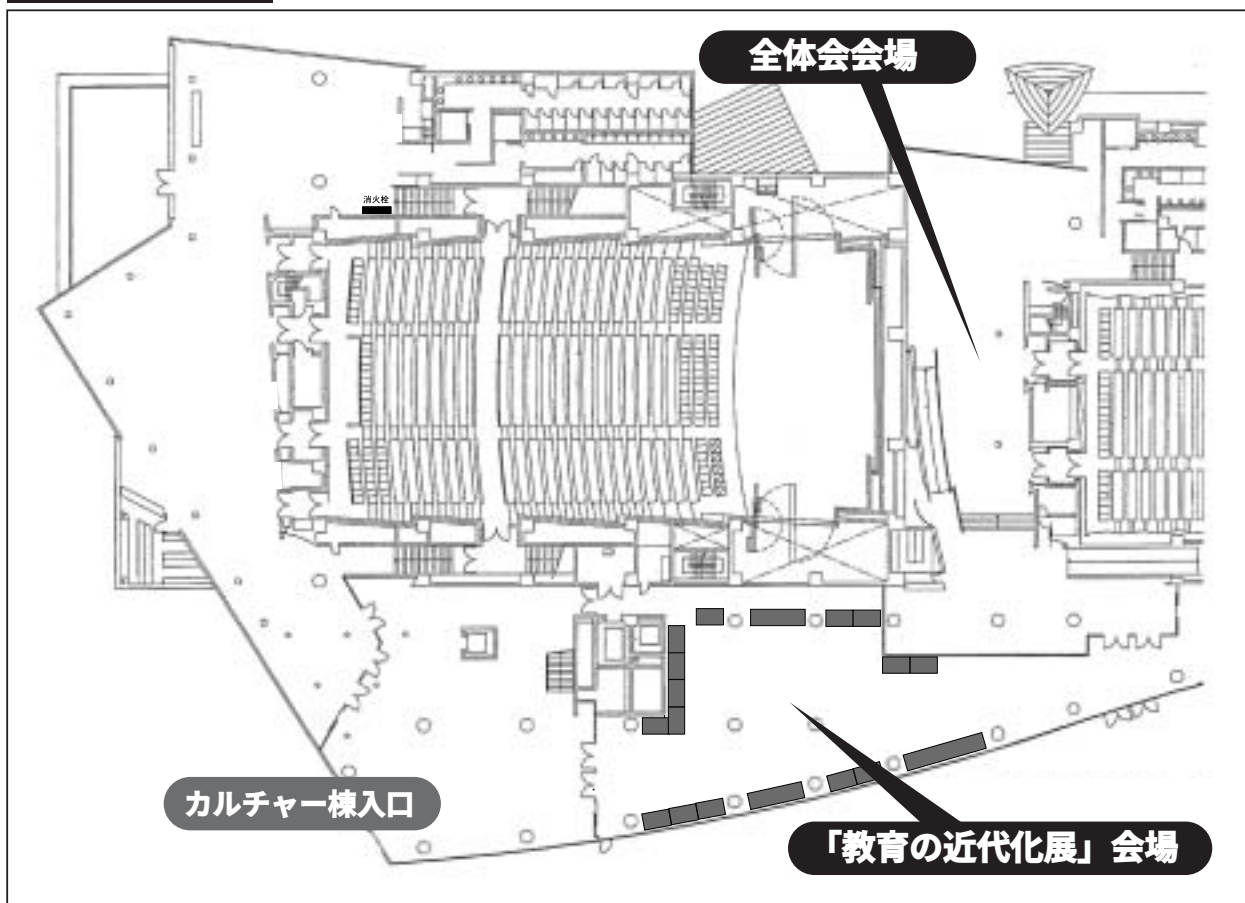
| 出 展 社 名                                                                                                                                                                                            | 出 展 内 容                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文部科学省<br><a href="http://www.mext.go.jp/">www.mext.go.jp/</a><br>日本視聴覚教具連合会<br><a href="http://www.shiguren.jp/">www.shiguren.jp/</a><br>NHK<br><a href="http://www.nhk.or.jp/">www.nhk.or.jp/</a> | ■「デジタルテレビの学校導入」ならびに「デジタルテレビ放送の活用事例」等の紹介                                                                                                  |
| 泉（株）<br><a href="http://www.izumi-cosmo.co.jp/screen/">www.izumi-cosmo.co.jp/screen/</a>                                                                                                           | ■「マグネットスクリーン WOL-FX」の紹介：ケースごと黒板に簡単にセットでき、書き込み、消去も可能なスクリーン<br>■「プロジェクターカート PJ-CW」の紹介：配線・準備の面倒を解消したコンパクトなプロジェクターカート、普通教室で視線を遮らないコンパクトな高さです |
| （株）内田洋行<br><a href="http://www.uchida.co.jp/">www.uchida.co.jp/</a>                                                                                                                                | ■「黒板があつという間にe-黒板に！」の紹介：電子情報ボード『インタラクティブユニットeB-P』……チョークを利用するようにコンピュータを操作できます。                                                             |
| 映機工業（株）<br><a href="http://www.eiki.jp/">www.eiki.jp/</a>                                                                                                                                          | ■語学学習向けCDコンボの紹介：ピッチコントロール付CDプレーヤー、カセットレコーダー・USBメモリーも対応。<br>■DVD & ビデオ一体型液晶プロジェクターの紹介：複雑な接続は不要、ハイビジョン映像・パソコン画像も投影可能。                      |
| NTTコミュニケーションズ（株）<br><a href="http://www.ntt.com/">www.ntt.com/</a>                                                                                                                                 | ■「簡単」・「便利」・「効果的」をテーマに各地で実践を行ってきたデジタル教材オーガナイザー（DeTeMO）の紹介<br>■安心・安全な登下校をサポートするICTタグシステム「キッズパス」の紹介                                         |
| エプソン販売（株）<br><a href="http://www.epson.jp/">www.epson.jp/</a>                                                                                                                                      | ■「教室で最適なプロジェクターの紹介」：プロジェクターを導入しても、なかなか活用できていない。そんな悩みを解決します。準備→使う→片付けと、各シーン毎に紹介します！                                                       |
| （株）エルモ社<br><a href="http://www.elmo.co.jp/">www.elmo.co.jp/</a>                                                                                                                                    | ■書画カメラ（実物投影機）から始まるICT活用授業の提案：書画カメラ（実物投影機）とプロジェクターで教材を大きく映して、あらゆる学習現場で集中力の高い授業を実現・学習効果をアップさせる。                                            |
| （株）学習研究社<br><a href="http://www.gakken.co.jp/">www.gakken.co.jp/</a>                                                                                                                               | ■ICT機器・校内LANは整備された！……「授業に使えるコンテンツは？」<br>■デジタルテレビを活用する授業で使える動画コンテンツとはどういうものか？<br>■「デジタル掛図」や小・中学校「理科」「社会」を中心とした動画コンテンツの紹介                  |
| （株）ジャストシステム<br><a href="http://www.justsystem.co.jp/school/">www.justsystem.co.jp/school/</a>                                                                                                      | ■「ジャストスクール」…子どもたちの個人情報を守り、先生の授業や校務もサポート<br>■「ジャストジャンプ／ジャストスマイル」…体験型の情報モラル教育に今すぐ取り組める！ 他、「EDIUS Neo」「ホームページ・ビルダー」の紹介                      |



| 出展社名                                                                                                            | 出展内容                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>東京書籍（株）</b><br><a href="http://www.tokyo-shoseki.co.jp/">www.tokyo-shoseki.co.jp/</a>                        | <b>■2007年教育映像祭最優秀作品賞を受賞したビデオソフト「マザー・テレサ あふれる愛」や2007年、2008年全国学力調査対応メニューが付いて、学力向上策として最適なパソコンソフト「問題データベース」などを展示。</b>                                       |
| <b>日本アビオニクス（株）</b><br><a href="http://www.avio.co.jp/">www.avio.co.jp/</a>                                      | <b>■資料提示装置一体型「インテリジェント プロジェクタ i Pシリーズ」の紹介：ノートやプリント、教科書を置くだけですぐに大画面提示！もちろんパソコンとビデオ・DVDも接続可能。カーテンを閉めなくても明るい画面を得られます。</b>                                  |
| <b>日本ビクター（株）</b><br><a href="http://www.jvc-victor.co.jp/">www.jvc-victor.co.jp/</a>                            | <b>■「授業をスムーズに進めるためのアイテム」の紹介：『ミキシングアンプ』：教室で使うAV機器の映像切替や音量調整が簡単に。</b><br><b>■「操作が簡単ビデオカメラ」の紹介：教材の製作や生活や特別活動の授業に活用できます。</b>                                |
| <b>パイオニアソリューションズ（株）</b><br><a href="http://wwwbsc.pioneer.co.jp/edu/">wwwbsc.pioneer.co.jp/edu/</a>             | <b>■「プラズマ電子情報ボード」の紹介：普段の授業でのICT利活用を促進し、わかりやすい授業を実現するためのツール。当社ブースで「教育の情報化」時代のツールをご確認ください。</b>                                                            |
| <b>パナソニック<br/>システムソリューションズジャパン（株）</b><br><a href="http://panasonic.co.jp/pss/pssj">panasonic.co.jp/pss/pssj</a> | <b>■「地上デジタル放送対応テレビ共聴システム」の紹介：アナログ校内放送設備を活かしながら次世代に対応するデジタル共聴システム</b><br><b>■「電子情報ボード」の紹介：電子黒板にパソコンとプロジェクターを接続し、インタラクティブ機能を効果的に組み合わせることで魅力ある授業をサポート。</b> |
| <b>（株）文溪堂</b><br><a href="http://www.bunkei.co.jp/">www.bunkei.co.jp/</a>                                       | <b>■「～伸びる学力、確かな教材～」：各教科の“分かる授業”、“学力の向上”を効果的に支援する確かなIT教材「チャレンジ漢ブリっこ・計ブリっこ」、[Webビジュアル学習事典地理・歴史]の2008最新版を紹介</b>                                            |

# ◆会場案内◆

## カルチャー棟



**豪華商品が当たる！  
大抽選会実施**

10月25日(土) 16:00頃  
カルチャー棟 展示コーナー

|                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1 日本アビオニクス展               | 11 美文洞堂      |
| 2 日本ビクター展                 | 12 美ジャストシステム |
| 3 NTTコミュニケーションズ展          | 13 エプソン販売展   |
| 4 パイオニアソリューションズ展          | 14 東京書籍      |
| 5 文部科学省 日本視覚教育員連合会 NHK    | 15 森美        |
| 6 美内田洋行                   |              |
| 7 パナソニックシステムソリューションズジャパン展 |              |
| 8 美エルモ社                   |              |
| 9 映機工業展                   |              |
| 10 美学習研究社                 |              |

# 学びたい!は 教育フェア 2008 終わらない

## NHK秋のふれあい広場

10/31(金)～11/3(月・祝)

午前10:00～午後5:00 (入場は4:30まで)

会場: NHK放送センター

入場無料 <http://www.nhk.or.jp/edu-fair/>

放送センターの一部を公開して、NHKの教育サービスを直接体感していただくイベントを行います。会場では、NHKの教育番組をご紹介しますコーナーをはじめ、本物の放送技術を体験できるコーナーや人気キャラクターのショーなど、楽しい催しが盛りだくさんです。是非ご来場ください。

### 関連番組

11/1(土)～3(月・祝)

#### ■NHK秋のふれあい広場

～教育フェア2008会場からの生中継番組

イベント会場から生中継で会場の様子や教育番組の魅力をご紹介します!

11/2(日) 午後9:00～(教育テレビ)

#### ■第35回日本賞授賞式

世界の教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」の授賞式の模様をお送りします!

※放送予定は変更・中止になる場合があります。

## NHK学校放送番組のご案内

NHK学校放送では2008年度、43の番組を放送しています。

小学校高学年向けには2つの新番組があります。

#### 「見える歴史」 月10:45～11:00

(小学校6年社会)

初めて日本の歴史を体系的に学ぶ子どもたちに向けてドラマやCGの映像をふんだんに盛り込んで、歴史を人物中心で紹介します。

#### 「伝える極意」 月10:00～10:15

(小学校5,6年 総合的な学習の時間・国語)

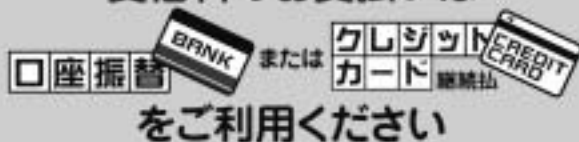
「伝える」ことに挑戦する子どもたちと、それを導く表現の達人たちの姿をとおり、人に何かを伝えるときの心得である「極意」を紹介します。



こうした学校放送番組の案内は「NHK学校放送・デジタル教材利用ガイド2008」に掲載されています。冊子はNHKデジタル教材ホームページ [www.nhk.or.jp/school](http://www.nhk.or.jp/school) の「せんせい」のページからダウンロードすることができます。

その他、NHK学校放送、NHKデジタル教材についてのお問い合わせは、〒150-8001 NHK学校教育番組部 または [www.nhk.or.jp/school/iken](http://www.nhk.or.jp/school/iken) からお願いいたします。

### 受信料のお支払いは



をご利用ください

#### 住所変更などのご連絡は

- NHK 担当者へ
- パソコンのホームページから <http://www.nhk.or.jp/jushinrya/>
- 携帯電話サイトから

アクセス方法 メニュー→TV→NHK→受信料の窓口

■お電話で ☎ **0120-151515**

【午前9時～午後10時(土・日・祝日は午後6時まで)通話料無料】



#### ケータイ版 番組表

地上波・BSの番組表や、海外ドラマ・アニメ・キッズの番組情報も掲載!

モード メニューリスト→TV・ラジオ・雑誌→TV→NHK

EZweb トップメニュー→カテゴリメニューリスト→TV・ラジオ・マガジン→地上波(全国TV)→NHK

Yahoo!ケータイ メニューリスト→TV・ラジオ・雑誌→TV→NHK



| 受信料額表(消費税を含む) | 2か月払額  | 6か月払額   | 12か月払額  |
|---------------|--------|---------|---------|
| 衛星契約(地上契約を含む) | 4,580円 | 13,090円 | 25,520円 |
| 地上契約          | 2,690円 | 7,650円  | 14,910円 |

※沖縄県は料額が異なります。

第12回 視聴覚教育総合全国大会  
第59回 放送教育研究会全国大会  
合同大会（東京大会）

大 会 要 項

平成20年10月23日発行

発行

全国放送教育研究会連盟、**NHK**  
視聴覚教育総合全国大会連絡協議会